

(様式第10)

獨医大病庶庶発第38号

令和 5年 10月 1日

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人 獨協学園

理事長 猪口 雄二

獨協医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和4年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒340-0042 埼玉県草加市学園町1番1号
氏名	学校法人 獨協学園

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

獨協医科大学病院
----------

3 所在の場所

〒321-0293 栃木県下都賀郡壬生町北小林880
電話(0282) 86 - 1111

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有						
内科と組み合わせた診療科名等							
	1呼吸器内科	○	2消化器内科	○	3循環器内科	○	4腎臓内科
	5神経内科		6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科
	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科		○		11リウマチ科
診療実績							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

## (2) 外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科		2消化器外科	○	3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

## (3) その他の標榜していることが求められる診療科名

	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科		11耳鼻咽喉科		12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

- (注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

## (4) 歯科

歯科							
歯科と組み合わせた診療科名							
○	1小児歯科	○	2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

## (5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	心臓・血管内科	2	血液・腫瘍内科	3	内分泌代謝内科	4	脳神経内科	5	呼吸器・アレルギー内科
6	形成外科・美容外科	7	頭頸部・耳鼻咽喉科	8	リハビリテーション科	9	病理診断科	10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

## 5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計	(単位:床)
42				1153	1195	

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	615	13.3	628.3
歯科医師	19	0.6	19.6
薬剤師	82	3.1	85.1
保健師	0	0	0
助産師	41	2.3	43.3
看護師	1006	80.5	1086.5
准看護師	1	0.9	1.9
歯科衛生士	5	2.7	7.7
管理栄養士	11	1.8	12.8

職種	員数
看護補助者	73
理学療法士	41
作業療法士	10
視能訓練士	8
義肢装具士	0
臨床工学士	31
栄養士	0
歯科技工士	0
診療放射線技師	72

職種	員数	
診療エックス線技師	0	
臨床検査	臨床検査技師	88
	衛生検査技師	0
	その他	0
あん摩マッサージ指圧師	0	
医療社会事業従事者	13	
その他の技術員	31	
事務職員	250	
その他の職員	28	

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	56	眼科専門医	11
外科専門医	32	耳鼻咽喉科専門医	13
精神科専門医	5	放射線科専門医	11
小児科専門医	18	脳神経外科専門医	13
皮膚科専門医	19	整形外科専門医	17
泌尿器科専門医	7	麻酔科専門医	10
産婦人科専門医	10	救急科専門医	17
		合計	239

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 ( 福田 宏嗣 任命年月日 令和 4 年 4 月 1 日

医療安全管理委員会委員(令和4年4月1日～令和6年3月31日)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	896.5 人	14.5 人	911 人
1日当たり平均外来患者数	2030.4 人	86.8 人	2117.2 人
1日当たり平均調剤数		1517	剤
必要医師数		213	人
必要歯科医師数		7	人

必要薬剤師数	31	人
必要(准)看護師数	527	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。  
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。  
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。  
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。  
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要	
集中治療室	800 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	病床数 19床 人工呼吸装置 有 その他の救急蘇生装置 有	心電計 有 心細動除去装置 有 ペースメーカー 有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	436 m <sup>2</sup>	病床数 34 床
	[移動式の場合]	台数	台	
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	m <sup>2</sup>	
	[共用室の場合]	共用する室名		
化学検査室	288 m <sup>2</sup>		(主な設備)	フロントエンド分注装置 IDS-CLAS3600 一式 自動搬送システム Aptio Automation 一式 化学・免疫化学複合自動分析装置 Atellica Scci 3台 純水装置 6台 免疫自動分析装置 Dimemsion EXL200 2台 免疫血清自分析装置ルミパルスL2400 2台 血液ガス分析装置 ラビッドポイント500a 3台 血液ガス分析装置 マネジメントシステム 1台 尿定性自動分析装置 US-3500 1台 血球計数自動分析装置 XN-3100 (XN-20×4) 2式 血球計数自動分析装置 XN-350 1台 フローサイトメーター Cytomics FC 500 1台 凝固・線溶自動分析装置 CS-5100 2台 血液・凝固・線溶検査検体並べ替え装置 TS-10 1台 赤血球沈降速度(血沈)検査測定装置 Quick eye 2台 多本架遠心分離機 H-80R H-36α 9台 遠心分離機 H-103N 2台 浸透圧測定装置 オズモステーション 1台 分光光度計 日立7012 1台 顕微鏡 NICON 6台 冷凍庫 2台 インキュベーター 1台
細菌検査室	m <sup>2</sup>		(主な設備)	安全キャビネット 4式 血液培養装置 3台 遺伝子解析装置 4台 自動核酸精製装置 2台 微生物同定感受性分析装置 WalkAway 1式 自動菌液分注装置 オートノリック BRIDE 1式 微生物分類同定分析装置 MALDI バイオタイパー 1式 顕微鏡(位相差、蛍光、ディスカッション) 3式 冷凍庫 2台 孵卵器 インキュベーター 7台
病理検査室	266 m <sup>2</sup>		(主な設備)	自動免疫染色装置、感染防止機能付クリオスタット 顕微鏡写真撮影装置、密閉式自動固定包埋装置 自動染色装置、感染防止対策用切出し台、 安全キャビネット クリーンベンチ 等

病理解剖室	80 m <sup>2</sup>		(主な設備)	感染防止対策用解剖台、医用写真撮影装置 等		
研究室	21154 m <sup>2</sup>		(主な設備)	マルチモードプレートリーダー、4D MV-Assessmentシステム次世代シークエンサーIon Protonシステム 等		
講義室	288 m <sup>2</sup>		室数	1	室	収容定員 240 人
図書室	5894 m <sup>2</sup>		室数	1	室	蔵書数 239,119 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。  
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

#### 11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	77.7	%	逆紹介率	59	%
算出根拠	A: 紹介患者の数		20871		人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		19294		人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		4530		人
	D: 初診の患者の数		32696		人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

#### 12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
野間 重孝	済生会宇都宮病院病院長	○	医療に係る安全管理に関する識見を有するもの	無	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
菊池 不佐男	菊池法律事務所弁護士		法律に関する識見を有する者	無	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
関根 房三	社会福祉法人 社会福祉協議会会長		医療を受ける者の代表者	無	医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く)
美津島 隆	獨協医科大学 リハビリテーション科学 教授		医療に関する学識経験者	有	その他
石田 和之	獨協医科大学 病理診断学教授		医療に関する学識経験者	有	その他

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。  
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者  
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)  
3. その他

#### 13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	<a href="https://www.dokkyomed.ac.jp/files/hosp-m/info/02954-006.pdf?2023">https://www.dokkyomed.ac.jp/files/hosp-m/info/02954-006.pdf?2023</a>





(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	重度脊柱変形に対する脊柱骨切り再建術	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 先天性側弯症などの重度側弯症に対する前方後方合併脊柱骨切術を併用した矯正固定術を行う			
医療技術名	早期発症側弯症に対するグローイングロッド手術	取扱患者数	12
当該医療技術の概要 10歳未満の早期発症重度側弯症に対し、延長可能なロッドシステムを利用した経時的脊柱延長矯正術を行う			
医療技術名	修正型電気痙攣療法	取扱患者数	36
当該医療技術の概要 100ボルト前後の電流を頭部に短時間通電することを反復し、各種の精神症状の改善を図る療法である。マスクまたは気管挿管による閉鎖式全身麻酔を麻酔科医師と共同して精神科医師が施行する			
医療技術名	経頭蓋磁気刺激療法	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 左前頭前野(背外側前頭前野)に対して、10-20Hzの磁気による高頻度刺激を行うことで大脳皮質興奮性を増強させ、抑うつ状態の改善を図る治療法である			
医療技術名	認知行動療法	取扱患者数	35
当該医療技術の概要 一連の治療計画を策定し、患者に対して詳細な説明を行った上で、当該療法に関する研修を受講するなど当該療法に習熟した医師によって、30分を超えて各種疾患(うつ病、強迫性障害など)に対して、16回程度のセッションで行う			
医療技術名	LCIG持続療法(レボドパ/カルビドパ配合経腸用液持続注入療法)	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 経鼻腔チューブによる試験投与で有効性を確認し、有効性が確認された場合、内視鏡下で胃瘻空腸路を造設し持続注入を開始する。レボドパ血中動態を限りなく安定化させることができるので、運動合併症の軽減が期待出来る			
医療技術名	内視鏡的胆管結石除去術	取扱患者数	245
当該医療技術の概要 総胆管結石症に対して結石を除去するため行う内視鏡治療			
医療技術名	肝悪性腫瘍ラジオ波焼灼術	取扱患者数	34
当該医療技術の概要 肝臓癌に対して超音波ガイド下に穿刺し電氣的に焼灼、壊死に至らしめる治療			
医療技術名	炎症性腸疾患に対する血球成分除去療法	取扱患者数	18
当該医療技術の概要 活動期潰瘍性大腸炎やクローン病患者に対する顆粒球や白血球成分除去療法			
医療技術名	クローン病患者に対するバルーン小腸内視鏡	取扱患者数	42
当該医療技術の概要 バルーン小腸内視鏡を用いてクローン病の診断や狭窄部治療、治療効果判定を行う			
医療技術名	劇症肝炎に対する血液浄化療法	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 劇症肝炎患者に対して行う血漿交換や血液濾過透析療法			

医療技術名	超音波内視鏡下瘻孔形成術	取扱患者数	8
当該医療技術の概要			
超音波内視鏡を用いて拡張した胆管に胃や十二指腸からステントを留置する治療法			
医療技術名	進行胃癌に対するDOS併用化学療法	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
高度リンパ節転移を有する進行胃癌に対して、術前化学療法Docetaxel, Oxaliplatin, S-1の3剤併用で行うことにより、生存率を延長することが期待できる			
医療技術名	ダ・ヴィンチ®Xi手術システムを用いた、ロボット支援腹腔鏡下胃癌手術	取扱患者数	40
当該医療技術の概要			
3D立体画像下で複雑かつ細かな手技が可能で、多関節機能を有し、手ぶれがないため、より安全かつ低侵襲な手術が行うことが可能となる			
医療技術名	術後補助化学療法中または終了後早期に再発した胃癌に対するCapeOX+ニボルマブ療法の第II相試験JACCRO GC-11 (FirSTAR 試験)	取扱患者数	0
当該医療技術の概要			
術後補助化学療法中または終了後早期に再発したHER2陰性胃癌の症例を対象にCapeOX+ニボルマブ療法の有効性を検討する			
医療技術名	縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
低肺機能や高齢などの理由により経胸的食道切除が困難な食道癌患者に対して、頸部および食道裂孔からの気縦隔操作によって十分な視野を確保しつつ縦隔郭清を伴う食道切除を行う術式である			
医療技術名	ダ・ヴィンチ®Xi手術システムを用いたロボット支援下食道悪性腫瘍手術	取扱患者数	14
当該医療技術の概要			
食道癌に対してロボット支援下に手術を行うことで精緻な食道切除およびリンパ節郭清が可能である。従来の胸腔鏡下食道切除術に比較して反回神経に対して愛護的な操作ができるため、嗄声、誤嚥性肺炎の発生予防に寄与するものである			
医療技術名	食道癌に対するドセタキセル、シスプラチン、フルオロウラシル(DCF)併用放射線療法	取扱患者数	9
当該医療技術の概要			
進行食道扁平上皮癌に対して標準とされているシスプラチン、フルオロウラシル(CF)併用放射線療法にドセタキセルを加えることで高い抗腫瘍効果を発揮する。有害事象も多いため、放射線治療計画を含めた専門施設での適切なマネージメントが必要である			
医療技術名	切除不能・再発食道癌に対するペムブロリズマブ+化学療法	取扱患者数	23
当該医療技術の概要			
切除不能・再発食道癌に対する新たな一次治療として免疫チェックポイント阻害薬であるペムブロリズマブと従来の化学療法(シスプラチン、フルオロウラシル)の併用療法が適用となり、高い治療効果が期待されている			
医療技術名	機械的血栓回収療法	取扱患者数	39
当該医療技術の概要			
急性期脳梗塞に対して血栓回収用デバイスを用いて脳・頸動脈を閉塞している血栓を除去し再開通させるカテーテル治療			
医療技術名	静注血栓溶解(rt-PA)療法	取扱患者数	69
当該医療技術の概要			
急性期脳梗塞に対してアルテプラゼを用いて脳・頸動脈を閉塞している血栓を溶解し再開通させる治療である			
医療技術名	腹腔鏡下胆道拡張症手術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
従来開腹手術で行なわれていた拡張胆管切除および肝管空腸吻合術を鏡視下で行なう高度な技術を要する手術			
医療技術名	体重1000g未満の超低出生体重児の消化管手術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要			
体重が1000gに満たない超低出生体重児の消化管閉塞症状や消化管穿孔に対する手術。麻酔管理、術後NICU管理を含めて繊細で高度な技術が必要			

医療技術名	胆道閉鎖症手術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 胆道閉鎖症は胎児期から乳児期早期に発症する主に肝外胆管の閉塞を来す疾患であり、生後2ヶ月以内に胆汁流出をはかる手術(肝門空腸吻合術)を行う			
医療技術名	腹腔鏡補助下Hirschsprung病根治術	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 腹腔鏡補助下Hirschsprung病根治術は、開腹に代わり腹腔鏡下で切除腸管の腸間膜処理や腹膜翻転部の剥離を行う高難度手術			
医療技術名	腹腔鏡補助下鎖肛根治術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 乳児の高位鎖肛手術は従来腹会陰式であったが、開腹創を小さくする腹腔鏡操作を併用した手術であり、高度な技術が必要である			
医療技術名	乳幼児後腹膜腫瘍摘出術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 乳幼児の腹部腫瘍は巨大であることが多く、腹腔動脈、上腸間膜動脈、腎動静脈などを損傷しないように注意が必要な手術である			
医療技術名	腹腔鏡下肥厚性幽門狭窄症手術	取扱患者数	7
当該医療技術の概要 体重3~5kg程度の乳児に対する幽門筋を切開する腹腔鏡手術であり、繊細な技術や高度な麻酔技術が必要である			
医療技術名	腹腔鏡下腸重積症整復術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 非観血的整復が不能であった腸重積症に対する外科的なアプローチで、腹腔鏡手術は開腹手術よりも術後の回復が早く整容性もよい			
医療技術名	腹腔鏡下肝切除	取扱患者数	26
当該医療技術の概要 原発性肝癌、転移性肝癌が対象である。術式は肝部分切除、肝外側区域切除、肝垂区域切除、肝左葉(左肝)切除までとしている			
医療技術名	腹腔鏡下膵体尾部切除	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 低悪性度膵腫瘍(郭清なし)とT1膵癌(郭清あり)を対象としている			
医療技術名	ロボット支援下膵体尾部切除	取扱患者数	20
当該医療技術の概要 低悪性度膵腫瘍(郭清なし)を対象としている			
医療技術名	生体肝移植	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 末期肝不全患者を対象とし、保険診療の範囲内で治療を行っている。背景疾患はウイルス性肝炎、肝細胞癌、自己免疫性疾患、急性肝障害(劇症肝炎)などである			
医療技術名	脳死膵腎移植	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 1型糖尿病患者を対象とし、脳死ドナーから膵および片腎を採取、レシピエントの骨盤腔内に膵を、左後腹膜腔に腎を移植する			
医療技術名	脳死肺移植	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 脳死ドナーより摘出・搬送した肺を登録してある慢性呼吸不全症例に移植したもの			

医療技術名	左室補助人工心臓植え込み術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
重症心不全による循環不全に対し左室補助人工心臓を植え込み心臓移植までのつなぎとして使用する			
医療技術名	経皮的左室補助カテーテル (Impella) 挿入術	取扱患者数	20
当該医療技術の概要			
重症心不全による循環不全に対し経皮的左室補助カテーテルを植え込み心臓が回復するまでのつなぎとして使用する			
医療技術名	経皮カテーテル大動脈弁置換術 (TAVI)	取扱患者数	42
当該医療技術の概要			
重症大動脈弁狭窄症に対し経皮的にカテーテルで大動脈弁を置換する。患者さんにとって低侵襲な治療である			
医療技術名	低侵襲心臓手術 (MICS)	取扱患者数	32
当該医療技術の概要			
胸骨正中切開を要さない右小開胸による心臓手術で、患者さんにとって低侵襲である			
医療技術名	ロボット支援心臓手術	取扱患者数	3
当該医療技術の概要			
Da Vinci 支援下で心臓弁膜症手術を行う。Mics よりもより切開が小さく低侵襲である			
医療技術名	経カテーテル大動脈弁留置術	取扱患者数	51
当該医療技術の概要			
経カテーテル大動脈弁留置術 (Transcatheter Aortic Valve Implantation: TAVI) は、重症の大動脈弁狭窄症に対して経カテーテル的に生体弁を大動脈弁に留置する治療法であり、開胸術がハイリスクな症例に対して新たな治療の選択肢となっている			
医療技術名	経皮的僧帽弁接合不全修復術「MitraClip™」	取扱患者数	15
当該医療技術の概要			
経皮的僧帽弁接合不全修復術「MitraClip™」(以下、マイトクリップ) は、低侵襲性の経皮的僧帽弁接合不全修復システムを用いた重症僧帽弁閉鎖不全症に対する治療法である。マイトクリップにより開胸術がハイリスクである重症僧帽弁閉鎖不全症の新たな治療の選択肢となっている			
医療技術名	経皮的卵円孔改善閉鎖術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
奇異性脳塞栓症の原因となる卵円孔開存に対する新たな低侵襲治療として経皮的卵円孔閉鎖術が開始され、奇異性脳塞栓の再発予防効果が期待できます			
医療技術名	リードレスペースメーカー	取扱患者数	25
当該医療技術の概要			
リードレスペースメーカーは、経カテーテル的に右心室に直接小型のペースメーカーを留置する方法である。経静脈ペースメーカー植え込み術における、リード、あるいは皮下ポケット関連の合併症を克服している			
医療技術名	植え込み型除細動器 (Implantable Cardioverter Defibrillator: ICD)	取扱患者数	30
当該医療技術の概要			
ICD は、心疾患の種類にかかわらず致命的頻脈性不整脈による心臓突然死を予防し生命予後を改善する、もともと有効かつ確立された治療法の 1 つである。最近では皮下植込み型除細動器 (S-ICD) や着用型自動除細動器 (WCD) も登場してライフスタイルに合わせた治療の選択肢が広がっている			
医療技術名	心臓再同期療法 (Cardiac Resynchronization Therapy: CRT, CRT-D)	取扱患者数	15
当該医療技術の概要			
心臓の伝導障害により、房室間、心室内、あるいは心室間同期不全が心不全の一因として存在する場合、心臓再同期療法は同期不全を解消し、心不全悪化を防止あるいは心機能を向上させ、自覚症状や予後の改善をもたらす治療法である			
医療技術名	光干渉断層法 (OCT) を用いた冠動脈プラーク診断と冠血管形成術	取扱患者数	66
当該医療技術の概要			
光干渉断層法 (OCT) により冠動脈プラークの組織性状を診断し、その結果によりバルーン・ステントを選択し、冠血管形成術を行う。こうした方法により冠血管形成術の合併症を予防し、長期予後改善が期待できる			

医療技術名	血管内視鏡を用いたステント内新生内膜の観察	取扱患者数	12
当該医療技術の概要 血管内視鏡はステント留置後の新生内膜の性状を直視し、正確に観察することが可能であり、冠血管形成術後の予後予測に重要である			
医療技術名	血管内超音波法(Intravascular Ultrasound: IVUS)を用いた冠動脈形成術	取扱患者数	346
当該医療技術の概要 現在IVUSは冠動脈形成術の適応治療戦略決定、至適終了決定に必須なモダリティである。特に我々の使用する近赤外分光法-血管内超音波検査(NIRS-IVUS)は冠動脈形成術後の予後予測に有用である			
医療技術名	補助循環用ポンプカテーテル(Impella)を用いた心源性ショック治療	取扱患者数	26
当該医療技術の概要 Impellaは経皮的に左室内に留置可能なポンプカテーテルであり、補助人工心臓と同等の機能を持つ。心負荷軽減と心筋循環改善による心機能改善効果が期待され、短期間であるが経皮的に導入可能であるためショック時の対応が迅速かつ低侵襲に装着可能である			
医療技術名	ロボット支援根治的腎摘除	取扱患者数	11
当該医療技術の概要 手術支援ロボットDaVinciを用いて、根治的腎摘除を低侵襲に施行している			
医療技術名	ロボット支援腎尿管全摘術	取扱患者数	13
当該医療技術の概要 手術支援ロボットDaVinciを用いて、腎尿管全摘除を低侵襲に施行している			
医療技術名	副腎髓質腫瘍(褐色細胞腫)に対するロボット支援副腎摘除	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 手術支援ロボットDaVinciを用いて、褐色細胞腫に対する副腎摘除を低侵襲に施行している			
医療技術名	ロボット支援副腎摘除	取扱患者数	15
当該医療技術の概要 手術支援ロボットDaVinciを用いて、副腎摘除を低侵襲に施行している			
医療技術名	ロボット支援膀胱全摘除術	取扱患者数	21
当該医療技術の概要 手術支援ロボットDaVinciを用いて、膀胱全摘除を低侵襲に施行している			
医療技術名	ロボット支援腎部分切除	取扱患者数	23
当該医療技術の概要 手術支援ロボットDaVinciを用いて、腎部分切除を低侵襲に施行している			
医療技術名	ロボット支援前立腺全摘除	取扱患者数	158
当該医療技術の概要 手術支援ロボットDaVinciを用いて、前立腺全摘除を低侵襲に施行している			
医療技術名	小耳症耳介挙上術及び鼓室形成術	取扱患者数	8
当該医療技術の概要 耳鼻科と形成外科で同時で行っている			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	66
取扱い患者数の合計(人)	1,647

## 4 指定難病についての診療

番号	疾患名	患者数	番号	疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	7	72	ベーチェット病	101
2	筋萎縮性側索硬化症	29	73	特発性拡張型心筋症	94
3	脊髄性筋萎縮症	5	74	肥大型心筋症	12
4	進行性核上性麻痺	32	75	再生不良性貧血	37
5	パーキンソン病	305	76	自己免疫性溶血性貧血	6
6	大脳皮質基底核変性症	11	77	発作性夜間ヘモグロビン尿症	2
7	ハンチントン病	6	78	特発性血小板減少性紫斑病	67
8	シャルコー・マリー・トウス病	10	79	原発性免疫不全症候群	8
9	重症筋無力症	118	80	IgA 腎症	21
10	先天性筋無力症候群	1	81	多発性嚢胞腎	36
11	多発性硬化症/視神経脊髄炎	88	82	黄色靱帯骨化症	2
12	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	28	83	後縦靱帯骨化症	55
13	封入体筋炎	3	84	広範脊柱管狭窄症	3
14	クロー・深瀬症候群	2	85	特発性大腿骨頭壊死症	28
15	多系統萎縮症	43	86	下垂体性ADH分泌異常症	15
16	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	63	87	下垂体性TSH分泌亢進症	3
17	ライソゾーム病	10	88	下垂体性PRL分泌亢進症	10
18	ミトコンドリア病	6	89	クッシング病	6
19	もやもや病	23	90	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	31
20	亜急性硬化性全脳炎	1	91	下垂体前葉機能低下症	117
21	全身性アミロイドーシス	21	92	甲状腺ホルモン不応症	1
22	遠位型ミオパチー	2	93	先天性副腎皮質酵素欠損症	6
23	神経線維腫症	27	94	アジソン病	4
24	天疱瘡	20	95	サルコイドーシス	123
25	表皮水疱症	2	96	特発性間質性肺炎	102
26	膿疱性乾癬(汎発型)	11	97	肺動脈性肺高血圧症	31
27	スティーヴンス・ジョンソン症候群	3	98	慢性血栓栓性肺高血圧症	33
28	中毒性表皮壊死症	1	99	リンパ管筋腫症	6
29	高安動脈炎	34	100	網膜色素変性症	33
30	巨細胞性動脈炎	24	101	特発性門脈圧亢進症	1
31	結節性多発動脈炎	9	102	原発性胆汁性肝硬変	19
32	顕微鏡的多発血管炎	64	103	原発性硬化性胆管炎	1
33	多発血管炎性肉芽腫症	17	104	自己免疫性肝炎	12
34	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	32	105	クローン病	175
35	悪性関節リウマチ	4	106	潰瘍性大腸炎	435
36	バージャー病	3	107	好酸球性消化管疾患	21
37	原発性抗リン脂質抗体症候群	12	108	全身型若年性特発性関節炎	1
38	全身性エリテマトーデス	328	109	家族性良性慢性天疱瘡	1
39	皮膚筋炎/多発性筋炎	160	110	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	23
40	全身性強皮症	159	111	特発性後天性全身性無汗症	11
41	混合性結合組織病	54	112	マルファン症候群	5
42	シェーグレン症候群	172	113	エーラス・ダンロス症候群	1
43	成人スチル病	21	114	ウィルソン病	4
44	再発性多発軟骨炎	5	115	モワット・ウィルソン症候群	1
45	先天性ミオパチー	6	116	総動脈幹遺残症	1
46	マリネスコ・シェーグレン症候群	1	117	完全大血管転位症	1
47	筋ジストロフィー	25	118	システロール血症	2
48	脊髄空洞症	7	119	家族性地中海熱	1
49	脊髄髄膜瘤	2	120	強直性脊椎炎	6
50	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	1	121	骨形成不全症	1
51	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	1	122	リンパ管腫症/ゴーハム病	1
52	前頭側頭葉変性症	2	123	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	1
53	先天性無痛無汗症	1	124	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	1
54	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	1	125	後天性赤芽球癆	4
55	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	1	126	エプスタイン症候群	2
56	レノックス・ガストー症候群	2	127	クロンカイト・カナダ症候群	1
57	ウエスト症候群	1	128	胆道閉鎖症	1
58	結節性硬化症	2	129	遺伝性膀胱炎	2
59	アルポート症候群	1	130	嚢胞性線維症	1
60	急速進行性糸球体腎炎	8	131	IgG4関連疾患	22
61	抗糸球体基底膜腎炎	1	132	黄斑ジストロフィー	3
62	一次性ネフローゼ症候群	36	133	好酸球性副鼻腔炎	301

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

63	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1	134	無虹彩症	2
64	紫斑病性腎炎	3	135	先天性気管狭窄症	1
65	間質性膀胱炎(ハンナ型)	3	136	脳クレアチン欠乏症候群	6
66	オスラー病	1			
67	閉塞性細気管支炎	2			
68	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	2			
69	副甲状腺機能低下症	1			
70	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	1			
71	先天異常症候群	1			

疾患名順不同

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	136
合計患者数(人)	4155

## (様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
特定機能病院入院基本料	重症患者初期支援充実加算
救急医療管理加算	報告書管理体制加算
超急性期脳卒中加算	病棟薬剤業務実施加算1
診療録管理体制加算1	病棟薬剤業務実施加算2
医師事務作業補助体制加算2 (30対1補助体制加算)	データ提出加算
急性期看護補助体制加算 (25対1補助体制加算)(看護補助者5割以上)	入退院支援加算
看護職員夜間配置加算 (看護職員夜間12対1配置加算1)	認知症ケア加算1
療養環境加算	せん妄ハイリスク患者ケア加算
重症者等療養環境特別加算	精神疾患診療体制加算
無菌治療室管理加算1	精神科急性期医師配置加算
無菌治療室管理加算2	排尿自立支援加算
放射線治療病室管理加算(治療用放射性同位元素による場合)	地域医療体制確保加算
緩和ケア診療加算	救命救急入院料3
精神科身体合併症管理加算	救命救急入院料4
精神科リエゾンチーム加算	特定集中治療室管理料3
摂食障害入院医療管理加算	脳卒中ケアユニット入院医療管理料
栄養サポートチーム加算	総合周産期特定集中治療室管理料 (母体・胎児集中治療室管理料)(新生児集中治療室管理料)
医療安全対策加算1	新生児治療回復室入院医療管理料
感染防止対策加算1	小児入院医療管理料1
患者サポート体制充実加算	看護職員処遇改善評価料(55)
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	地域歯科診療支援病院歯科初診料
ハイリスク妊娠管理加算	歯科外来診療環境体制加算2
ハイリスク分娩管理加算	歯科診療特別対応連携加算
呼吸ケアチーム加算	
後発医薬品使用体制加算1	
感染対策向上加算1 指導強化加算	

## (様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	こころの連携指導料(Ⅱ)
ウイルス疾患指導料	がん治療連携計画策定料
外来栄養食事指導料注2 注3	肝炎インターフェロン治療計画料
心臓ペースメーカー指導管理料の注5に規定する遠隔モニタリング加算	外来排尿自立指導料
糖尿病合併症管理料	薬剤管理指導料
がん性疼痛緩和指導管理料	医療機器安全管理料1
がん患者指導管理料イ	医療機器安全管理料2
がん患者指導管理料ロ	医療機器安全管理料(歯科)
がん患者指導管理料ハ	在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2
外来緩和ケア管理料	在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に規定する遠隔モニタリング加算
移植後患者指導管理料(臓器移植後)(造血幹細胞移植後)	在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料
糖尿病透析予防指導管理料	在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
小児運動器疾患指導管理料	在宅経肛門的自己洗腸指導管理料
乳腺炎重症化予防ケア・指導料	持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
婦人科特定疾患治療管理料	持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
一般不妊治療管理料	骨髄微小残存病変量測定
生殖補助医療管理料1	BRCA1/2遺伝子検査 ・腫瘍細胞を検体とするもの・血液を検体とするもの
二次性骨折予防継続管理料1	がんゲノムプロファイリング検査
二次性骨折予防継続管理料3	遺伝学的検査
下肢創傷処置管理料	先天性代謝異常症検査
外来腫瘍化学療法診療料1・連携充実加算	精密触覚機能検査
外来放射線照射診療料	抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
腎代替療法指導管理料	ウイルス・細菌核酸多項目同時検出
ニコチン依存症管理料	HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談支援加算	検体検査管理加算(Ⅰ)(Ⅳ)
ハイリスク妊産婦連携指導料1.2	国際標準検査管理加算

## (様式第2)

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
遺伝カウンセリング加算	呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
遺伝性腫瘍カウンセリング加算	摂食機能療法の注3に規定する摂食嚥下支援加算2
胎児心エコー法	がん患者リハビリテーション料
ヘッドアップティルト試験	集団コミュニケーション療法料
長期継続頭蓋内脳波検査	経頭蓋磁気刺激療法
終夜睡眠ポリグラフィー (安全精度管理下で行うもの)	救急患者精神科継続支援料
脳波検査判断料1	認知療法・認知行動療法1
単線維筋電図	手術用顕微鏡加算
神経学的検査	抗精神病特定薬剤治療指導管理料 (治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
補聴器適合検査	医療保護入院等診療料
全視野精密網膜電図	静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)
ロービジョン検査判断料	歯根端切除手術の注3
コンタクトレンズ検査料1	エタノールの局所注入(甲状腺)
小児食物アレルギー負荷検査	エタノールの局所注入(副甲状腺)
内服・点滴誘発試験	人工腎臓
ポジロン断層撮影	導入期加算2及び腎代替療法実績加算
ポジロン断層・コンピューター断層複合撮影	透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
冠動脈CT撮影加算	下肢末梢動脈疾患指導管理加算
CT撮影及びMRI撮影	心不全に対する遠赤外線温熱療法
心臓MRI撮影加算	歯周組織再生誘導手術
抗悪性腫瘍剤処方管理加算	上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
無菌製剤処理料	磁気による膀胱等刺激法
心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	広範囲顎骨支持型装置埋入手術
脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	歯科麻酔管理料
歯科口腔リハビリテーション料2	センチネルリンパ節加算
運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	自家脂肪注入

## (様式第2)

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
椎間板内酵素注入療法	肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)
内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。 )及び脳刺激装置交換術	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡支援機器を用いる場合)
癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)	同種死体肺移植術
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	生体部分肺移植術
仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(便失禁)	食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)等
舌下神経電気刺激装置植込術	胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
角結膜悪性腫瘍切除術	経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
治療的角膜切除術(エキシマレーザーによるもの(角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る。))	胸腔鏡下弁形成術・胸腔鏡下弁形成術(内視鏡支援機器を用いる場合)
角膜移植術(内皮移植加算)	経カテーテル大動脈弁置換術
羊膜移植術	胸腔鏡下弁置換術
緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	経皮的僧帽弁クリップ術
緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	不整脈手術 左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)、不整脈手術 左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)
緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))	経皮的中等心筋焼灼術
経外耳道的内視鏡下鼓室形成術	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うもの)	両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む)	植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術
鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
乳腺悪性腫瘍手術	大動脈バルーンポンピング法(IABP法)
乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)	経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)	補助人工心臓
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	植込型補助人工心臓(非拍動流型)

## (様式第2)

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
経皮的下肢動脈形成術	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)	人工尿道括約筋植込・置換術
腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)	腹腔鏡下仙骨腫固定術
腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) ① 単純切除術② 悪性腫瘍切除術	腹腔鏡下仙骨腫固定術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) ① 単純切除術② 悪性腫瘍切除術	腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡支援機器を用いる場合)
腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) ① 単純全摘術② 悪性腫瘍手術	手術の通則の第19号に掲げる手術(子宮附属器腫瘍摘出術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対して行う手術))
腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)	輸血管管理料Ⅱ
胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	貯血式自己血輸血管管理体制加算
体外衝撃波胆石破碎術	同種クリオプレシペート作製術
腹腔鏡下肝切除術(部分切除及び外側区域切除)(亜区域切除、1区域切除(外側区域切除を除く)、2区域切除及び3区域切除以上のもの)	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
生体部分肝移植術	胃瘻造設時嚥下機能評価加算
体外衝撃波膵石破碎術	麻酔管理料(Ⅰ)注5周術期薬剤管理加算
腹腔鏡下膵腫瘍摘出術	麻酔管理料(Ⅱ)注5周術期薬剤管理加算
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	放射線治療専任加算
腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	外来放射線治療加算
腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	クラウン・ブリッジ維持管理料
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	高エネルギー放射線治療
腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	1回線量増加加算
腹腔鏡下副腎摘出手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下副腎髄質腫瘍摘出手術(褐色細胞腫)(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	強度変調放射線治療(IMRT)
体外衝撃波腎・尿管結石破碎術	画像誘導放射線治療(IGRT)
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの) 腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	対外照射呼吸性移動対策加算
同種死体腎移植術	定位放射線治療
生体腎移植術	定位放射線治療呼吸性移動対策加算





(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
閉経期女性冠動脈疾患患者のエクオール摂取の有用性	阿部 七郎	内科学(心臓・血管)	200,000	補委 日本学術振興会
慢性腎臓病を合併した冠動脈疾患ペリーハイリスク患者の心血管イベント抑制を目的とした冠動脈MRブラークイメージングの有効性を検証する多施設前向き無作為化対照試験	金谷 智明	内科学(心臓・血管)	680,000	補委 AMED
銀の練り込み及びMPCポリマーコーティングによる抗菌胆管ステントの基礎的検討	入澤 篤志	内科学(消化器)	1,000,000	補委 日本学術振興会
特発性造血障害に関する調査研究	三谷 絹子	内科学(血液・腫瘍)	4,700,000	補委 厚生労働省
造血器腫瘍における遺伝子パネル検査の提供体制構築およびガイドライン作成	三谷 絹子	内科学(血液・腫瘍)	500,000	補委 厚生労働省
現状の障害認定基準の課題の整理ならびに次期全国在宅障害児・者等実態調査の検討のための調査研究	三谷 絹子	内科学(血液・腫瘍)	2,400,000	補委 厚生労働省
造血器腫瘍治療における細胞内シグナル修飾と免疫賦活化の両面からの難治性の克服	今井 陽一	内科学(血液・腫瘍)	1,000,000	補委 日本学術振興会
種々の症状を呈する難治性疾患における中枢神経感作の役割の解明と患者ケアの向上を目指した複数疾患領域統合多施設共同疫学研究	鈴木 圭輔	内科学(神経)	300,000	補委 厚生労働省
サルコペニアの発症・進展の分子病態の解明と新規治療法の開発	頼 建光	内科学(腎臓・高血圧)	3,200,000	補委 日本学術振興会
糖尿病神経障害・糖尿病足病変の診断ガイドラインならびに管理法の確立	麻生 好正	内科学(内分泌代謝)	代表者一括計上	補委 厚生労働省
白色脂肪の褐色化と糖代謝制御におけるMAIT細胞の役割に関する研究	薄井 勲	内科学(内分泌代謝)	700,000	補委 日本学術振興会
糖尿病性心筋障害に対する糖尿病治療薬の影響に関する基礎的検討	城島 輝雄	内科学(内分泌代謝)	600,000	補委 日本学術振興会
新たな2型糖尿病腎線維化モデルの開発および解析から迫る糖尿病腎症病態	井上 有威子	内科学(内分泌代謝)	300,000	補委 日本学術振興会
糖尿病神経障害・糖尿病足病変の診断ガイドラインならびに管理法の確立	加瀬 正人	内科学(内分泌代謝)	代表者一括計上	補委 厚生労働省
EGFR遺伝子変異陽性進行非扁平上皮非小細胞肺癌に対するゲフィチニブまたはオシメルチニブ単剤療法とゲフィチニブまたはオシメルチニブにシスプラチン+ペメトレキセドを途中挿入する治療とのランダム化比較試験	仁保 誠治	内科学(呼吸器・アレルギー)	2,000,000	補委 AMED
高悪性度神経内分泌肺癌切除例に対する術後補助化学療法の標準治療確立のための研究	仁保 誠治	内科学(呼吸器・アレルギー)	294,000	補委 AMED
自己免疫性筋炎に合併する重症間質性肺炎の新規治療法の開発戦略	倉沢 和宏	内科学(リウマチ・膠原病)	1,100,000	補委 日本学術振興会
劇症型間質性肺炎の新規治療開発に向けた免疫病原性肺マクロファージの基盤的研究	有馬 雅史	内科学(リウマチ・膠原病)	1,100,000	補委 日本学術振興会
劇症型間質性肺炎における気管支上皮細胞の病理学的機能の解明と新規治療の開発研究	田中 彩絵	内科学(リウマチ・膠原病)	1,100,000	補委 日本学術振興会
24時間持続血糖を用いた統合失調症患者の予後改善の試み	古郡 規雄	精神神経医学	1,200,000	補委 日本学術振興会

小計20件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
治療抵抗性統合失調症薬の安全性の検証による望ましい普及と体制構築に向けた研究	古郡 規雄	精神神経医学	800,000	補委	厚生労働省
精神疾患レジストリの利活用による治療効果、転帰予測、新たな層別化に関する研究	古郡 規雄	精神神経医学	4,000,000	補委	AMED
精神科領域のガイドラインの社会実装化に関する検証研究	古郡 規雄	精神神経医学	300,000	補委	AMED
心拍変動・瞬時心拍変動に着目した向精神薬による精神疾患患者の突然死予防戦略	岡安 寛明	精神神経医学	800,000	補委	日本学術振興会
CYP遺伝子多型に焦点をあてたベンラファキシンの薬物動態解析	佐々木 はづき	精神神経医学	900,000	補委	日本学術振興会
本邦における抗うつ薬による性機能障害の評価方法と薬理的対処法の開発	篠崎 将貴	精神神経医学	1,300,000	補委	日本学術振興会
女性の評価にもとづく男性周産期うつ病の新規スクリーニングシステムの開発	徳満 敬大	精神神経医学	900,000	補委	日本学術振興会
統合失調症罹患者におけるフレイルの実態と発症要因に関する研究	藤平 明広	精神神経医学	1,200,000	補委	日本学術振興会
双極性障害治療時のバルプロ酸による高アンモニア血症の機序解明	横山 沙安也	精神神経医学	1,000,000	補委	日本学術振興会
アトピー性皮膚炎におけるMAIT細胞の役割を明らかにする	井川 健	皮膚科学	1,300,000	補委	日本学術振興会
乾癬におけるMAIT細胞の機能解析	石井 英輔	皮膚科学	1,000,000	補委	日本学術振興会
家族性発症する甲状腺腫の遺伝学的要因の解析	小飼 貴彦	ゲノム診断・臨床検査医学	900,000	補委	日本学術振興会
過敏性肺炎の全国疫学調査と疾患進行抑制のためのエクスポソーム研究	吉原 重美	小児科学	50,000	補委	AMED
重症気管支喘息患者の生物学的製剤の有効性を予測するバイオマーカーの探索	吉原 重美	小児科学	代表者一括計上	補委	AMED
小児からAYA世代胚細胞腫瘍の治療毒性低減とmiRNA発現の生物学的特性解明を目指した国際共同臨床試験	佐藤 雄也	小児科学	150,000	補委	AMED
肺高血圧症ラットモデルにおけるQQ細胞の移植効果	関根 佳織	小児科学	1,500,000	補委	日本学術振興会
基本的臨床能力評価試験の質向上についての研究	志水 太郎	総合診療医学	代表者一括計上	補委	厚生労働省
自動問診AIの利用を前提とした診断精度を最大化する診断思考理論の開発	原田 侑典	総合診療医学	800,000	補委	日本学術振興会
オンラインで身体診察を可能にする「リアルタイム遠隔聴診」システムの開発と臨床応用	廣澤 孝信	総合診療医学	1,300,000	補委	日本学術振興会
座学と臨床の溝を埋めるハイブリッド型医療面接教育プログラムの開発と実践	横瀬 允史	総合診療医学	1,400,000	補委	日本学術振興会

小計20件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
胆道閉鎖症特異的iPS細胞を用いた胆管発生およびその障害メカニズムの解明	鈴木 完	外科学(上部消化管)	900,000	補委	日本学術振興会
慢性炎症を背景とした肝発癌の機序解明と肝癌高危険群の囲い込み法の開発	青木 琢	外科学(肝・胆・膵)	3,000,000	補委	AMED
大腸癌における癌関連線維芽細胞に基づく抗がん剤治療効果予測システムの開発	清水 崇行	外科学(肝・胆・膵)	400,000	補委	日本学術振興会
加速度トレーニングによる心不全患者の運動耐容能と血管内皮機能向上に関する研究	斎藤 俊輔	心臓・血管外科学	1,300,000	補委	日本学術振興会
HMG-CoA還元酵素を標的とした胸腺癌に対する新たな治療戦略の構築	千田 雅之	呼吸器外科学	800,000	補委	日本学術振興会
呼吸器内視鏡を中核とする次世代肺がん外科へのプレジジョン診断の確立	中島 崇裕	呼吸器外科学	1,400,000	補委	日本学術振興会
ヒト下垂体腺腫細胞株の樹立と難治性下垂体腺腫に対する血管新生抑制療法の確立	阿久津 博義	脳神経外科学	1,600,000	補委	日本学術振興会
脊柱靭帯骨化症に関する調査研究	種市 洋	整形外科	250,000	補委	厚生労働省
患者レジストリを利活用した脊柱靭帯骨化症の治療成績向上のための多施設臨床研究	種市 洋	整形外科	600,000	補委	AMED
脊柱後弯症患者における歩行障害の病態解明と、変形矯正手術による歩行機能の変化	稲見 聡	整形外科	2,500,000	補委	日本学術振興会
骨髄穿刺濃縮細胞による一次的軟骨再生治療および抗炎症・軟骨保護効果の解明	瓜田 淳	整形外科	900,000	補委	日本学術振興会
腎細胞癌におけるエネルギー代謝異常とがん免疫回避機構の分子細胞学的な解析	釜井 隆男	泌尿器科学	1,100,000	補委	日本学術振興会
分子シャペロン調節性標的蛋白分解誘導剤を用いた去勢抵抗性前立腺癌の新規治療の開発	木島 敏樹	泌尿器科学	1,500,000	補委	日本学術振興会
酸化・窒素化ストレスによる嗅粘膜障害-気道リモデリングの嗅粘膜分泌異常の解明-	春名 眞一	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	1,000,000	補委	日本学術振興会
先天性および若年性の視覚聴覚二重障害の難病に対する医療および移行期医療支援に関する研究	深美 悟	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	150,000	補委	厚生労働省
妊娠高血圧腎症の母児合併症を改善する抗炎症治療の開発	成瀬 勝彦	産科婦人科学	1,200,000	補委	日本学術振興会
美容医療における医療安全を確保し、医療安全に係る諸制度との連携を実装して安全な美容医療のシステムを構築するための研究	朝戸 裕貴	形成外科学	1,380,000	補委	厚生労働省
体外灌流法を用いた遊離皮弁モデルと無細胞真皮マトリックスを用いた人工脂肪弁の開発	飯田 拓也	形成外科学	500,000	補委	日本学術振興会
痛みセンターを中心とした慢性疼痛診療システムの均てん化と診療データベースの活用による医療向上を目指す研究	山口 重樹	麻酔科学	200,000	補委	厚生労働省
口腔発癌における骨髄幹細胞の関与:マウスモデルを用いた検証と診断への応用	川又 均	口腔外科学	600,000	補委	日本学術振興会

小計20件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
マルチリージョンシークエンスによる口腔癌の発生とクローン進化機構の解明	福本 正知	口腔外科学	900,000	補委	日本学術振興会
歯科治療により発生するエアロゾル中のSARS-CoV-2の検出と臨床的意義	大谷 紗織	口腔外科学	1,800,000	補委	日本学術振興会
プロテアーゼインヒビターによる口腔がん細胞の浸潤機構の解明	小宮山 雄介	口腔外科学	1,300,000	補委	日本学術振興会
脳血管障害患者の運動時におけるT2強調画像を用いた前腕の筋活動の解析	美津島 隆	リハビリテーション科学	500,000	補委	日本学術振興会
高齢脳卒中急性期患者における筋質の変化と、その変化に影響を与える因子の検討	入澤 寛	リハビリテーション科学	100,000	補委	日本学術振興会
集中治療における早期摂食嚥下リハビリテーションの効果	中村 智之	リハビリテーション科学	1,600,000	補委	日本学術振興会
肝外胆管癌における癌細胞の胃腸分化と癌間質マーカーの発現状態の検討	石田 和之	病理診断学	1,300,000	補委	日本学術振興会
循環器救急疾患に対する救急医療現場の連携推進のための課題抽出と専門医間の連携構築を目指したガイドブックの作成	菊地 研	救命救急センター	200,000	補委	厚生労働省
RNAウイルス疾患を特異的に診断する核医学検査法及びその治療薬の開発に関する研究	中神 佳宏	PETセンター	1,100,000	補委	日本学術振興会
急性心筋梗塞患者の末梢血で増加するMUSE細胞のプロファイル	佐久間 理吏	再生医療センター	1,800,000	補委	日本学術振興会
早期非小細胞肺癌に対する体幹部定位放射線治療線量増加ランダム化比較試験	江島 泰生	放射線治療センター	300,000	補委	AMED
循環器病に係る急性期から回復期・慢性期へのシームレスな医療提供体制の構築のための研究	竹川 英宏	脳卒中センター	代表者一括計上	補委	厚生労働省
循環器病に対する複合リハビリテーションを含むリハビリテーションの現状と課題の明確化のための研究	竹川 英宏	脳卒中センター	代表者一括計上	補委	厚生労働省
循環器疾患のサルコペニアとその対策としてのリハビリ法の開発・分子機構の解明	中島 敏明	ハートセンター	4,400,000	補委	日本学術振興会

合計74件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Nishino S, Sakuma M, Abe S, et al.	心臓・血管内科/循環器内科	Mechanism of vascular injury and repair – importance of lesion morphology.	Circ J. 2022 May; 86:975- 976.	Original Article
2	Abe S, Haruyama Y, Kobashi G, et al.	心臓・血管内科/循環器内科	Effect of novel stratified lipid risk by “LDL- Window” and flow- mediated dilation on the prognosis of coronary artery disease using the FMD-J Study A data.	Circ J. 2022 Aug; 86:444- 1454.	Original Article
3	Shibasaki I, Masawa T, Abe S, et al.	心臓・血管内科/循環器内科 (Ikuko Shibasaki and Taito Masawa equally contributed to this work)	Benefit of veno-arterial extracorporeal membrane oxygenation combined with Impella (ECpella) therapy in acute coronary syndrome with cardiogenic shock.	J Cardiol. 2022 Aug; 80: 116-124.	Original Article
4	Nishikawa R, Fukuda T, Haruyama A, et al.	心臓・血管内科/循環器内科	Association between serum GDF-15, myostatin, and sarcopenia in cardiovascular surgery patients.	Int J Cardiol Heart Vasc. 2022 Aug; 42:101114.	Original Article
5	Sakuma M, Imuro S, Shinozaki T, et al.	心臓・血管内科/循環器内科	Optimal target of LDL cholesterol level for statin treatment: challenges to monotonic relationship with cardiovascular events.	BMC Med. 2022,Dec; 20:441.	Original Article
6	Ishizaka H, Mizushima Y, Tezuka T, et al.	心臓・血管内科/循環器内科	Respiratory and circulatory responses during low-intensity resistance exercise training using a KAATSU device in male patients with cardiovascular disease.	Dokkyo Medical Journal. 2022 Dec; 1:317-326.	Original Article
7	Minami K, Nakamura K, Maeno E, et al.	心臓・血管内科/循環器内科	Provocation and localization of arrhythmogenic triggers from persistent left superior vena cava in patients with atrial fibrillation.	J Clin Med. 2023 Feb; 12:1783.	Original Article

8	Toyoda S, Otani N.	心臓・血管内科/循環器内科	Could the control of O-GlcNAcylation play a key role in cardiac remodeling?	Hypertens Res. 2023 Mar; 46:765-767.	Original Article
9	Suzuki Yuka, Hoshi Koki, Tominaga Keiichi, et al.	消化器内科	A case of obstructive jaundice caused by metastasis of breast cancer to the intra/extrahepatic bile duct.	DEN open . 2022 Jun 20;3(1):e144	Case report
10	Kanazawa Mimari, Tominaga Keiichi, Kanamori Akira, et al.	消化器内科	A Case of Stevens-Johnson Syndrome Complicated with Multimatrix System Mesalamine in Ulcerative Colitis.	Medicina (Kaunas, Lithuania) . 2022 Feb 11;58(2):276	Case report
11	Fukushi Koh, Hoshi Koki, Abe Yoko, et al.	消化器内科	A new method to identify the afferent limb in balloon enteroscopy-assisted ERCP: Retention of gel mixed with contrast medium under fluoroscopy.	Endoscopy . 2023 Dec;55(S 01):E290-E291	Case report
12	Goda Kenichi, Abe Keiichiro, Kanamori Akira, et al.	消化器内科	Advanced Endoscopy for Benign Esophageal Disease: A Review Focused on Non-Erosive Reflux Disease and Eosinophilic Esophagitis.	Healthcare (Basel) . 2022 Oct 31;10(11):2183	Review
13	Irisawa Atsushi	消化器内科	Advances in therapeutic interventional endoscopic ultrasound.	Digestive Endoscopy . 2022 May;34 Suppl 2:124-128	Review
14	Masuyama Satoshi, Kanazawa Mimari, Tominaga Keiichi, et al.	消化器内科	Alpha-Fetoprotein-Producing Gastric Cancer With Delayed Diagnosis Caused by COVID-19: A Case Report.	Cureus . 2022 Jul 28;14(7):e27392	Case report
15	Fukushi Koh, Goda Kenichi, Kino Hitoshi, et al.	消化器内科	Curative resection with endoscopic submucosal dissection of early gastric cancer in Helicobacter pylori-negative Ménétrier's disease: A case report.	World Journal of Gastroenterology	Case report
16	Yamamiya Akira, Irisawa Atsushi, Abe Yoko, et al.	消化器内科	Diagnosing chronic pancreatitis by endoscopic ultrasound assessing the association between ultrasound and pathological findings: A narrative review.	DEN open . 2022 Sep 15;3(1):e164	Review
17	Hoshi Koki, Tominaga Keiichi, Izawa Naoya, et al.	消化器内科	Direct large flow of venous gas into right atrium and ventricle during endoscopic biliary treatment.	Endoscopy . 2022 Dec;54(S 02):E877-E878	Case report

18	Goda Kenichi	消化器内科	Duodenum: Endoscopic diagnosis of superficial non-ampullary duodenal epithelial tumors.	Digestive Endoscopy . 2022 May;34 Suppl 2:68-72	Review
19	Tanaka Takanao, Tominaga Keiichi, Yamamiya Akira, et al.	消化器内科	Making Hematochezia of Unknown Origin Known: A Retrospective Analysis.	Digestion . 2022;103(6):404-410	Original Article
20	Minaguchi Takahito, Yamamiya Akira, Tominaga Keiichi, et al.	消化器内科	Measuring optimal ultrasound speed using endoscopic ultrasound in patients with chronic pancreatitis, including early stage.	Digestive Endoscopy . 2022 Sep;34(6):1214-1221	Original Article
21	Abe Keiichiro, Tominaga Keiichi, Yamamiya Akira, et al.	消化器内科	Natural History of Small Gastric Subepithelial Lesions Less than 20 mm: A Multicenter Retrospective Observational Study (NUTSHELL20 Study).	Digestion . 2023;104(3):174-186	Original Article
22	Kanamori Akira, Tominaga Keiichi, Masuyama Hironori, et al.	消化器内科	Size reduction of gastric fundic gland polyposis by de-escalation of acid-suppressive therapy.	DEN open . 2022 Jun 5;3(1):e135	Case report
23	Yamamiya Akira, Tominaga Keiichi, Hoshi Koki, et al.	消化器内科	The Risk Factors for Progression to Chronic Pancreatitis in Patients with Past-History of Acute Pancreatitis: A Retrospective Analysis Based on Mechanistic Definition.	Journal of Clinical Medicine . 2022 Apr 15;11(8):2209	Original Article
24	Nagashima Kazunori, Irisawa Atsushi, Kashima Ken, et al.	消化器内科	The Risk of Bleeding in Small/Straight Esophageal Varices with Red Color Sign on Endoscopy: A Retrospective Analysis from the Natural Course.	Healthcare (Basel) . 2022 Jun 26;10(7):1193	Original Article
25	Fukushi Koh, Yamamiya Akira, Tominaga Keiichi, et al.	消化器内科	Usefulness of Adding Maspin Staining to p53 Staining for EUS-FNA Specimens of Pancreatic Ductal Adenocarcinoma.	Journal of Clinical Medicine . 2022 Oct 16;11(20):6097	Original Article
26	Akira Kanamori, Keiichi Tominaga, Hironori Masuyama, et al.	消化器内科	Size reduction of gastric fundic gland polyposis by de-escalation of acid-suppressive therapy.	DEN open . 2022 Oct 16;11(20):6097	Case report
27	Akira Kanamori, Kenichi Goda, Tetsuya Nakamura, et al.	消化器内科	Salvage endoscopic submucosal dissection for local recurrence of superficial esophageal squamous cell cancer after photodynamic therapy.	Internal Medicine . 2022 Jul 15;61(14):2149-2153	Case report

28	Yoichi Takimoto, Atsushi Irisawa, Koki Hoshi, et al.	消化器内科	The impact of endoscopic sphincterotomy incision size on common bile duct stone recurrence: A propensity score matching analysis.	Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences . 2022 Dec;29(12):1274-1282	Original Article
29	Kawata Y, Yamamiya A, Tominaga K, et al.	消化器内科	Two Cases of Hyponatremia Following Bowel Preparation for Colonoscopy.	Dokkyo Medical Journal. 1(1);76-80:2022.	Case report
30	Abe M, Furuichi M, Ishimitsu T, et al.	腎臓・高血圧内科	Analysis of purple urine bag syndrome by low vacuum scanning electron microscopy.	Med Mol Morphol. 2022 Jun; 55:123-130. doi: 10.1007/s00795-022-00313-0.	Original Article
31	Ishimitsu A, Tojo A, Hirao J, et al.	腎臓・高血圧内科	AL-Kappa Primary Amyloidosis with Apolipoprotein A-IV Deposition.	Intern Med 61: 871-876, 2022. doi: 10.2169/internalmedicine.7955-21	Case report
32	Abe M, Kaiga A, Ohira T, et al.	腎臓・高血圧内科	Urinary podocyte excretion predicts urinary protein selectivity and renal prognosis.	International Journal of Nephrology Volume 2022 Jun, Article ID 2702651, 11 pages <a href="https://doi.org/10.1155/2022/2702651">https://doi.org/10.1155/2022/2702651</a>	Original Article
33	Arakawa H, Yokoyama S, Ohira T, et al.	腎臓・高血圧内科	Juvenile Membranous Nephropathy developed after Human Papillomavirus(HPV) Vaccination.	Vaccines 2022;10(9),1442; <a href="https://doi.org/10.3390/vaccines10091442">https://doi.org/10.3390/vaccines10091442</a>	Case report
34	Honda T, Ishimitsu T, Satonaka H, et al.	腎臓・高血圧内科	Therapeutic effects of a selective mineralocorticoid receptor blocker as an additional combination antihypertensive drug in hypertensive patients.	Dokkyo Med J 1(3):226-234, 2022.	Original Article
35	Iwashima Y, Fukushima H, Horio T, et al.	腎臓・高血圧内科	Efficacy and safety of sacubitril/valsartan after switching from azilsartan in hemodialysis patients with hypertension.	J Clin Hypertens (Greenwich). 2023 Mar;25(3):304-308.	Original Article
36	Iwashima Y, Fukushima H, Horio T, et al.	腎臓・高血圧内科	Blood pressure, arterial waveform, and arterial stiffness during hemodialysis and their clinical implications in intradialytic hypotension.	Hypertens Res. 2023 Mar;46(3):697-707.	Original Article
37	Keisuke Suzuki, Kei Funakoshi, Hiroaki Fujita, et al	脳神経内科	The Effect of Rotigotine on Cognitive Function, Daytime Sleepiness, and Sleep Problems in Parkinson Disease: An Open-Label Pilot Study.	Clin Neuropharmacol 45(3): 2022 May-Jun;45(3):61-64.	Original Article

38	Tomoko Komagamine, Keisuke Suzuki, Norito Kokubun, et al	脳神経内科	Sleep-related hallucinations in patients with Parkinson's disease.	PLoS One 17(10): 2022 Oct 25;17(10):e0276736.	Original Article
39	Hiroaki Fujita, Tomohiko Shiina, Hiroataka Sakuramoto, et al	脳神経内科	Sleep and Autonomic Manifestations in Parkinson's Disease Complicated With Probable Rapid Eye Movement Sleep Behavior Disorder.	Front Neurosci 16: 2022 Apr 8;16:874349.	Original Article
40	Hiroaki Fujita, Keisuke Suzuki, Yuji Watanabe, et al	脳神経内科	Substantia nigra hyperechogenicity in Parkinson's disease and related disorders: A follow-up study.	Dokkyo Medical Journal 1(4):2022.Dec: 367-372	Original Article
41	Narihiro Nozawa, Hiroaki Fujita, Tomohiko Shiina, et al	脳神経内科	Relationship between fatigue and nocturnal problems related to Parkinson's disease.	Dokkyo Medical Journal 1(3): 2022 Dec:181-188	Original Article
42	Tomoko Komagamine, Reika Aoki-Kawabata, Mai Hamaguchi, et al	脳神経内科	Chunky yarn sign: A screening marker for brachial plexus hypertrophy on axial cervical spine MRI.	Neurology and Clinical Neuroscience 11(4):2023 Mar: 226-230	Original Article
43	Keitaro Ogaki, Hiroaki Fujita, Narihiro Nozawa, et al	脳神経内科	Factors contributing to sleep disturbances and excessive daytime sleepiness in patients with Parkinson's disease.	Front Neurol 14:2023 Mar: 1097251	Original Article
44	Shiho Suzuki, Keisuke Suzuki, Tomohiko Shiina, et al	脳神経内科	Can calcitonin gene-related peptide monoclonal antibody improve migraine and restless legs syndrome?	J Neurol Sci 443:2022 Apr: 120462	Case report
45	Hiroaki Fujita, Mukuto Shioda, Keisuke Suzuki	脳神経内科	Anti-LGI1 encephalitis recurring 3 years after the first episode: a case report.	BMC Neurol 22(1):2022 Apr: 148	Case report
46	Keisuke Suzuki, Shiho Suzuki, Tomohiko Shiina, et al	脳神経内科	Central sensitization in migraine: a narrative review.	J Pain Res 15:2022 Sep: 2673-2682	Review
47	Saro Kobayashi, Norito Kokubun, Reika Aoki, et al	脳神経内科	Possible role of neutrophils in astrocyte injury in neuromyelitis optica spectrum disorder.	J Neurol Sci 438:2022 Jul; 120293	Letter
48	Kei Funakoshi, Keisuke Suzuki	脳神経内科	A safe change from eculizumab to satralizumab in a patient with neuromyelitis optica spectrum disorder.	Neurol Sci 44(3):2023 Mar: 1097-1098	Letter

49	Keisuke Suzuki	脳神経内科	Microstructural changes in the basal ganglia in restless legs syndrome and migraine.	Sleep Biol. Rhythms 20:2022 May; 323-324	Others
50	Aso Yoshimasa	内分泌代謝内科	Updates in diabetic neuropathy: A call for new diagnostic and treatment approaches.	Journal of diabetes investigation; 2022 Mar;13(3):432-434. doi: 10.1111/jdi.13711.	Case report
51	Jojima Teruo,Shinzawa Toshimitsu,Ohira Reiko, et al	内分泌代謝内科	Switching from the tablet to the powder formulation of levothyroxine corrects severe hypothyroidism in a patient with lactose intolerance.	Endocrine journal;2022 Aug 29;69(8):941-945. doi: 10.1507/endocrj.EJ21-0656.	Original Article
52	Jojima Teruo,Kurai Hidetaka,Tanuma Dai ,et al	内分泌代謝内科	Synergistic effects of liver fibrosis and sarcopenia on endothelial dysfunction and arterial stiffness in patients with type 2 diabetes.	Int J Cardiol Heart Vasc . 2022 Jun 16;41:101071. doi: 10.1016/j.ijcha.2022.101071.	Original Article
53	Shinohara Yasutake, Ando Hiromi, Maekawa Masamitsu, et al	内分泌代謝内科	Transcription of cytochrome P450 46A1 in NIH3T3 cells is negatively regulated by FBS.	Biochimica et biophysica acta. Molecular and cell biology of lipids;2022 Jun;1867(6):159136. doi: 10.1016/j.bbali.2022.159136.	Original Article
54	Kishi Haruka, Usui Isao, Jojima Teruo, et al	内分泌代謝内科	Increased Number of Mucosal-Associated Invariant T Cells Is Associated with the Inhibition of Nonalcoholic Fatty Liver Disease in High Fat Diet-Fed Mice.	International journal of molecular sciences;2022 Dec 4;23(23):15309. doi: 10.3390/ijms232315309.	Original Article
55	Hirao Nanako, Iijima Toshie, Tanuma Dai, et al	内分泌代謝内科	Effects of treatment with methimazole on circulating CD4+ and CD8+ T cells positive for programmed cell death protein-1 and on subsets of CD4+ T cells in untreated hyperthyroid patients with Graves' disease.	Clinical endocrinology;2022 Dec;97(6):841-848. doi: 10.1111/cen.14788.	Original Article
56	Niho seiji	呼吸器・アレルギー内科	Impact of Adding Vascular Endothelial Growth Factor Inhibitor to Immune Checkpoint Inhibitor Therapy.	Journal of thoracic oncology;2022 Jul;17(7):865-866. doi: 10.1016/j.jtho.2022.05.001.	Others
57	Shimizu Yasuo,Horigane-Konakai Yukiko, Ishii Yoshii et al	呼吸器・アレルギー内科	Mucosal-associated invariant T cells repress group 2 innate lymphoid cells in Alternaria alternata-induced model of allergic airway inflammation.	Frontiers in immunology;2022 Nov 15;13:1005226. doi: 10.3389/fimmu.2022.1005226.	Original Article

58	Nakamura Yusuke, Shimizu Yasuo	呼吸器・アレルギー内科	Cellular and Molecular Control of Lipid Metabolism in Idiopathic Pulmonary Fibrosis: Clinical Application of the Lysophosphatidic Acid Pathway	Cells;2023 Feb 8;12(4):548. doi: 10.3390/cells12040548.	Review
59	Ikeda Naoya, Arai Ryo, Soda Sayo et al	呼吸器・アレルギー内科	Carboplatin plus nab-paclitaxel for recurrent small cell lung cancer: A phase II study	Thorac Cancer;2022 May;13(9):1342-1348. doi: 10.1111/1759-7714.14394.	Original Article
60	Masawa Meitetsu, Sato-Yazawa Hanako, Kashiwagi Korehito, et al	呼吸器・アレルギー内科	REST Inactivation and Coexpression of ASCL1 and POU3F4 Are Necessary for the Complete Transformation of RB1/TP53-Inactivated Lung Adenocarcinoma into Neuroendocrine Carcinoma	Am J Pathol;2022 Jun;192(6):847-861. doi: 10.1016/j.ajpath.2022.03.007.	Original Article
61	<u>Hiyama Tomoka</u> ;Kurasawa Kazuhiro;Hasegawa Anna;et al.	リウマチ・膠原病内科	Differences and similarities in cytokine profiles of macrophage activation syndrome in systemic lupus erythematosus and adult-onset Still's disease.	Clinical and experimental medicine.2023 Jan 7. doi: 10.1007/s10238-023-00988-4. (オンライン)	Original Article
62	<u>Tanaka Aya</u> ;Kurasawa Kazuhiro;Soda Sayo;et al.	リウマチ・膠原病内科	Changing patterns of pulmonary abnormalities in rheumatoid arthritis.	Respiratory investigation.2023 Jan;61(1):27-39.	Original Article
63	Tokumitsu K, Yasui-Furukori N, Adachi N, et al.	精神神経科	Predictors of psychiatric hospitalization among outpatients with bipolar disorder in the real-world clinical setting	Front Psychiatry. 2023 Mar 16;14:1078045. doi: 10.3389/fpsy.2023.1078045. (オンライン)	Original Article
64	Okayasu H, Shinozaki T, Takano Y, et al.	精神神経科	Effect of antipsychotic use by patients with schizophrenia on deceleration capacity and its relation to the corrected QT interval	Gen Hosp Psychiatry. 2023 Mar-Apr;81:15-21. doi: 10.1016/j.genhosppsych.2023.01.005.	Original Article
65	Tokumitsu K, Yasui-Furukori N, Fisher SD, et al.	精神神経科	Development and validation of the Japanese version of EPDS-P for indirect screening of paternal perinatal depression based on maternal reporting: Protocol for a prospective longitudinal observational study	Neuropsychopharmacol Rep. 2023 Mar;43(1):163-170. doi: 10.1002/npr2.12321. (オンライン)	Original Article

66	Sugawara N, Yasui-Furukori N, Maruo K, et al.	精神神経科	Predictors of psychological distress and sleep deprivation in caregivers of stroke survivors	J Stroke Cerebrovasc Dis. 2023 Jan;32(1):106899. doi: 10.1016/j.jstrokecerebrovasdis.2022.106899.	Original Article
67	Sato Y, Sugawara N, Kono N, et al	精神神経科	Association Between Psychotropic Medications and Cases of Severe Falls From Hospital Patient Safety Reports	J Patient Saf. 2023 Jan 1;19(1):e9-e10. doi: 10.1097/PTS.00000000000001064.	Letter
68	Kawamata Y, Yasui-Furukori N, Adachi N, et al.	精神神経科	Effect of age and sex on prescriptions for outpatients with bipolar disorder in the MUSUBI study: a cross-sectional study	Ann Gen Psychiatry. 2022 Sep 12 (オンライン)	Original Article
69	Hishimoto A, Yasui-Furukori N, Sekine D, #Contributed equally.	精神神経科	Treatment Discontinuation Among Patients with Schizophrenia Treated with Brexpiprazole and Other Oral Atypical Antipsychotics in Japan: A Retrospective Observational Study	Adv Ther. 2022 Sep;39(9):4299-4314. doi: 10.1007/s12325-022-02252-9.	Original Article
70	Komahashi-Sasaki H, Yasui-Furukori N, Maehara R, et al.	精神神経科	A case of mood disorder with severe side effects of antidepressants in association with resistance to thyroid hormone beta with a THRB mutation	Neuropsychopharmacol Rep. 2022 Sep;42(3):391-394. doi: 10.1002/npr2.12280. (オンライン)	Case report
71	Sato A, Yasui-Furukori N, Oda Y, et al.	精神神経科	Asymptomatic syndrome of inappropriate secretion of antidiuretic hormone (SIADH) following duloxetine treatment for pain with depression: Two case reports	Neuropsychopharmacol Rep. 2022 Sep;42(3):387-390. doi: 10.1002/npr2.12279. (オンライン)	Case report
72	Yokoyama S, Sugawara N, Maruo K, et al.	精神神経科	Blood Levels of Ammonia and Carnitine in Patients Treated with Valproic Acid: A Meta-analysis	Clin Psychopharmacol Neurosci. 2022 Aug 31;20(3):536-547. doi: 10.9758/cpn.2022.20.3.536.	Review
73	Sugawara N, Adachi N, Kubota Y, et al.	精神神経科	Determinants of three-year clinical outcomes in real-world outpatients with bipolar disorder: The multicenter treatment survey for bipolar disorder in psychiatric outpatient clinics (MUSUBI)	J Psychiatr Res. 2022 Jul;151:683-692. doi: 10.1016/j.jpsychires.2022.05.028.	Original Article

74	Hori H,# Yasui-Furukori N,# Hasegawa N, et al. #Contributed equally.	精神神経科	Prescription of Anticholinergic Drugs in Patients With Schizophrenia: Analysis of Antipsychotic Prescription Patterns and Hospital Characteristics	Front Psychiatry. 2022 May 17;13:823826. doi: 10.3389/fpsy.2022.823826. (オンライン)	Original Article
75	Sugawara N, Yasui-Furukori N, Yamada S, et al.	精神神経科	Relationship Between Cognitive Functions and Decision-Making Capacity in Older Institutionalized Patients with Schizophrenia: A Preliminary Study	Neuropsychiatr Dis Treat. 2022 Apr 1;18:891-897. doi: 10.2147/NDT.S357067. (オンライン)	Original Article
76	Aoi Sato, Yoshiteru Sato, Norio Sugawara, et al/	精神神経科	Predictors of the intentions to leave among nurses in an academic medical center	Psychiatry Clin. Neurosci. Rep. 2022 September (オンライン)	Original Article
77	Hiroaki Okayasu, Norio Sugawara, Yasushi Kawamata, et al	精神神経科	Factors associated with the work-self balance of nurses in an advanced medical center	Psychiatry Clin. Neurosci. Rep. 2022 September (オンライン)	Original Article
78	Norio Yasui-Furukori, Yuji Otsuka, Jose de Leon	精神神経科	Japanese patients need slower, personalized clozapine titrations: A comment on the case described by Kikuchi et al.	Psychiatry Clin. Neurosci. Rep. 2023 Jun (オンライン)	Letter
79	Terada M, Hayashi S, Kaminaga T, et al	皮膚科	Cutaneous tertiary syphilitic gumma on the scalp.	J Eur Acad Dermatol Venereol. 2022 May;36(5):e350-e352.	Letter
80	Yoshida A, Ikegami T, Igawa K.	皮膚科	Two cases of anti-TIF1- $\gamma$ antibody positive dermatomyositis with manifested symptoms after SARS-CoV-19 vaccination.	J Eur Acad Dermatol Venereol. 2022 Jul;36(7):e517-e520.	Letter
81	Mori H, Hayashi S, Okamoto M, et al	皮膚科	Paraconiothyrium cyclothyrioides infected on the sole of a healthy person: A case report.	J Dermatol. 2022 Aug;49(8):e278-e279.	Case report
82	Hayashi S, Yamaguchi T, Kosho T, et al	皮膚科	Case report: Mild phenotype of a patient with vascular Ehlers-Danlos syndrome and <i>COL3A1</i> duplication mutation without alteration in the [Gly-X-Y] repeat sequence.	Front Genet. 2022 Nov 18;13:1017446.	Case report

83	Shinozaki A, Hayashi S, Hongo T, et al	皮膚科	Efficacy of methotrexate for steroid-resistant eosinophilic fasciitis with delayed start of treatment: a case report.	Int J Dermatol. 2023 Feb;62(2):e67-e68.	Case report
84	Sayuri Kajitani, Manabu Miyamoto, Yuumi Tokura, et al.	小児科	Testicular Torsion Associated with Henoch-Schönlein Purpura.	J Pediatr. 2022 Apr;243:231-232.	Case report
85	Yuji Fujita, Keiichi Tominaga, Takanao Tanaka, et al.	小児科	Eosinophilic Duodenal Ulcer Exacerbation after Helicobacter pylori Eradication in a 14-Year-Old Boy.	Tohoku J Exp Med . 2022 Jun 8;257(2):153-156.	Case report
86	Yuto Otsubo, Yuji Fujita, Yusuke Ando, et al.	小児科	Elevated serum TARC/CCL17 levels associated with childhood interstitial lung disease with SFTPC gene mutation	Pediatr Pulmonol . 2022 Jul;57(7):1820-1822.	Case report
87	Yuji Fujita, George Imataka, Hiroshi Sakuma, et al.	小児科	Multiple encephalopathy syndrome: a case of a novel radiological subtype of acute encephalopathy in childhood	Eur Rev Med Pharmacol Sci . 2022 Aug;26(16):5729-5735.	Case report
88	Yuji Fujita, Keiichi Tominaga, Kazuyuki Ishida, et al.	小児科	Proton Pump Inhibitor to Treat an Eosinophilic Duodenal Ulcer with Esophageal Involvement: A Pediatric Case.	Tohoku J Exp Med . 2022 Jul 16;257(4):309-313.	Case report
89	George Imataka, Ryoichi Sakuta, Akira Maehashi, et al.	小児科	Current Status of Internet Gaming Disorder (IGD) in Japan: New Lifestyle-Related Disease in Children and Adolescents	J Clin Med . 2022 Aug 4;11(15):4566.	Review
90	Yuji Fujita, Shigeko Kuwashima, Tamae Kato, et al.	小児科	Magnetic resonance imaging of a pediatric case of arthritis associated with acute lymphoblastic leukemia: A case report.	Exp Ther Med . 2022 Aug 16;24(4):624.	Case report
91	George Imataka, Shigeko Kuwashima, Shigemi Yoshihara.	小児科	A Comprehensive Review of Pediatric Acute Encephalopathy.	J Clin Med. 2022 Oct 7;11(19):5921.	Review
92	Akira Akutsu, Yuto Otsubo, Hiroshi Suzumura, et al.	小児科	Congenital cutaneous candidiasis in one infant among a twin sibling pair	Arch Dis Child Fetal Neonatal Ed . 2022 Nov;107(6):637.	Case report

93	Manabu Miyamoto, Ryota Kuribayashi, Hiroshi Suzumura, et al.	小児科	Skin color change due to peripherally inserted central catheter leakage	Pediatr Neonatol . 2022 Nov;63(6):647-648.	Case report
94	Yuji Fujita, Shotaro Suzuki, Yoshiyuki Shirakawa, et al.	小児科	Computed tomography-like magnetic resonance images based on T1 spoiled gradient-echo to detect calcinosis in a patient with anti-nuclear matrix protein 2 antibody-positive juvenile	Rheumatol Adv Pract . 2022 Nov 7;6(3):rkac093.	Case report
95	Fujita Yuji, Matsudera Shotaro, Watanabe Shun, et al.	小児科	Extensive Subcutaneous Abscess due to Pantone-Valentine Leucocidin-Positive Community-Associated Methicillin-Resistant Staphylococcus aureus in an Infant.	Tohoku J Exp Med . 2022 Nov 11;258(4):303-307.	Case report
96	Yuji Fujita, Keiichi Tominaga, Takanao Tanaka, et al.	小児科	Oral lesions preceding paediatric perianal fistulising Crohn's disease.	Journal of paediatrics and child health 2022 Dec;58(12):2336-2337.	Case report
97	Yuji Fujita, Takeshi Yamaguchi, Naoki Yuasa, et al.	小児科	Clostridioides difficile Infection after Antibiotics Treatments for Acute Appendicitis in a 2-year-old Girl	Dokkyo Medical Journal/Volume 1 (2022) Issue 3	Case report
98	Yuji Fujita, Yusuke Ando, Tamae Kato, et al.	小児科	Clinical Abdominal Kikuchi-Fujimoto Disease Resembling Macrophage Activation Syndrome Associated with Systemic Juvenile Idiopathic Arthritis	Dokkyo Medical Journal/Volume 1 (2022) Issue 3	Case report
99	Yuji Fujita, Takeshi Yamaguchi, Kazunori Kurosaki, et al.	小児科	Kawasaki Disease Preceded by Acute Appendicitis: A Pediatric Case.	Indian J Pediatr . 2023 Jan;90(1):100.	Case report
100	Yuji Fujita, Kazuhiro Kurasawa, Shigeko Kuwashima, et al.	小児科	Polyarthritis Associated with Kikuchi-Fujimoto Disease in a Child	Indian J Pediatr . 2023 Feb;90(2):199.	Case report
101	Yuji Fujita, Shigeko Kuwashima, Sayumi Saida, et al.	小児科	Chest Radiography Leading to the Correct Diagnosis of Juvenile Takayasu Arteritis	Indian J Pediatr . 2023 Feb;90(2):197-198.	Case report

102	Yuji Fujita, Minako Tomiita, Sayumi Saida, et al.	小児科	Intravenous tocilizumab for Takayasu arteritis with aortic aneurysms, bilateral renal artery stenosis, and atypical aortic coarctation in a 2-year-old girl	Mod Rheumatol Case Rep . 2023 Jan 3;7(1):160-165.	Case report
103	Junko Naganuma , Satomi Koyama, Yoshiyuki Watabe, et al.	小児科	A Boy with Reset Osmostat Who Developed Chronic Hyponatremia due to Hypothalamic Injury Caused by a Giant Arachnoid Cyst	Clin Res Pediatr Endocrinol . 2023 Feb 16.(オンライン)	Case report
104	George Imataka, Yuji Fujita, Jin Kikuchi, et al.	小児科	Brain Hypothermia Therapy and Targeted Temperature Management for Acute Encephalopathy in Children: Status and Prospects	J Clin Med . 2023 Mar 7;12(6):2095.	Review
105	Masaya Kato, Manabu Miyamoto, Fumitaka Takayanagi, et al.	小児科	Pollen Food Allergy Syndrome in Japanese Children and Adolescents: Risk Factors and Pollen Sensitisation	J Immunol Res . 2023 Mar 9;2023:4075264. (オンライン)	Original Article
106	Yuhi Takagi, George Imataka, Yuji Kano, et al.	小児科	Acute urinary retention due to severe constipation in a 5 Year-old boy	MJM Case Reports Journal Vol 1 No 1, August 2022.	Case report
107	Koji Wake, Takafumi Noguchi, Hidekazu Hishinuma, et al	救急医学	Characteristics of patients who received helicopter emergency medical services in Japan from 2012 to 2019: a retrospective analysis of data from Tochigi Prefecture.	Scand J Trauma Resusc Emerg Med. 2022 Apr 11;30(1):25	Original Article
108	Masanari Machida, Koji Wake, Jin Kikuchi, 他	救急医学	The Operation of a Doctor Helicopter in the Tochigi Prefecture	Dokkyo Medical Journal.2022 September; 1 (3) :207-217	Original Article
109	Kentaro Hayashi, Yusuke Sasabuchi, Hiroki Matsui, et al	救急医学	Additive effectiveness of acrylonitrile-co-methyl sulfonate surface-treated membranes in the treatment of pneumonia: A propensity score-matched retrospective cohort study.	Artificial organs.2023 Feb;47(2):408-416. doi: 10.1111/aor.14435. Epub 2022 Nov 8.	Original Article
110	Migaku Kikuchi, Osamu Nomura, Katsutaka Hashiba, et al	救急医学	Issues Related to High-Sensitivity Troponin Assays - Reply.	Circ Rep. 2022 Oct 21;4(11):560-561. doi: 10.1253/circrep.CR-22-0100. eCollection 2022 Nov 10.	Letter

111	Hirosawa T, Ito T, Harada Y, et al.	総合診療科	The utility of phonocardiograms in real-time remote cardiac auscultation using an internet-connected electronic stethoscope: Open-label randomized controlled pilot trial.	DIGITAL HEALTH. 2023 Mar 5;9:20552076231161945. doi: 10.1177/20552076231161945. eCollection 2023 Jan-Dec.	Original Article
112	Hirosawa T, Harada Y, Yokose M, et al.	総合診療科	Diagnostic Accuracy of Differential-Diagnosis Lists Generated by Generative Pretrained Transformer 3 Chatbot for Clinical Vignettes with Common Chief Complaints: A Pilot Study.	Int J Environ Res Public Health. 2023 Feb 15;20(4):3378. doi: 10.3390/ijerph20043378.	Original Article
113	Shimizu T, Lim TK.	総合診療科	"Pivot and Cluster Strategy" in the light of Kahneman's "Decision Hygiene" template.	Diagnosis (Berl). 2023 Feb 14;10(3):215-217. doi: 10.1515/dx-2022-0129. eCollection 2023 Aug 1	Original Article
114	Harada Y, Otaka Y, Katsukura S, et al.	総合診療科	Effect of contextual factors on the prevalence of diagnostic errors among patients managed by physicians of the same specialty: a single-centre retrospective observational study.	BMJ Qual Saf. 2023 Jan (オンライン)	Original Article
115	Ito T, Hirosawa T, Harada Y, et al.	総合診療科	Evaluation of Internet-Connected Real-Time Remote Auscultation: An Open-Label Randomized Controlled Pilot Trial.	J Pers Med 2022;12.1950.	Original Article
116	Shimizu T, Graber ML.	総合診療科	An equation for excellence in clinical reasoning.	Diagnosis (Berl).2022 Nov 10;10(2):61-63. doi: 10.1515/dx-2022-0060.	Original Article
117	Harada T, Harada Y, Hiroshige J, et al.	総合診療科	Factors associated with delayed diagnosis of appendicitis in adults: A single-center, retrospective, observational study.	PLoS One. 2022 Oct 20;17(10):e0276454.	Original Article

118	Yokose M, Harada Y, Hanai S, et al.	総合診療科	Outcomes of General Internal Medicine Consultations for Diagnosis from Specialists in a Tertiary Hospital: A Retrospective Observational Study.	Int J Gen Med. 2022 Sep 13;15:7209-7217. doi: 10.2147/IJGM.S378146.	Original Article
119	Hirosawa T, Hayashi A, Harada Y, et al.	総合診療科	The Clinical and Biological Manifestations in Women with Iron Deficiency Without Anemia Compared to Iron Deficiency Anemia in a General Internal Medicine Setting: A Retrospective Cohort Study.	Int J Gen Med. 2022;15:6765-6773.	Original Article
120	Shimizu T, Graber M.	総合診療科	How insight contributes to diagnostic excellence.	Diagnosis (Berl). 2022 Jun 8. doi: 10.1515/dx-2022-0007.	Original Article
121	Kakimoto S, Harada Y, Shimizu T.	総合診療科	A thermal imaging camera at the work office triggered the diagnosis of Takayasu arteritis.	QJM. 2023 Mar 28;hcad049. doi: 10.1093/qjmed/hcad049. Epub ahead of print. PMID: 36975608.	Case report
122	Otaka Y, Harada Y, Kawamura R, et al.	総合診療科	EPIPERICARDIAL FAT NECROSIS.	Eur J Case Rep Intern Med.2023 Mar 8;10(3):003823.	Case report
123	Harada Y, Masuyama T, Yokose M, et al.	総合診療科	Acute-on-Chronic Pattern of Isolated Upper Back Pain in a Patient With Acute Coronary Syndrome.	Cureus. 2023 Feb 13;15(2):e34923. doi: 10.7759/cureus.34923.	Case report
124	Kakimoto S, Harada Y, Shimizu T.	総合診療科	Japanese Pit Viper Bite during Pregnancy.	Eur J Case Rep Intern Med. 2022 Nov 15;9(11):003652. doi: 10.12890/2022_003652.	Case report
125	Hanai S, Terasawa T, Iwata M.	総合診療科	Asymptomatic entrapped denture in the hypopharynx.	BMJ Case Rep. 2022 Nov 15;15(11):e248487.	Case report
126	Sakamoto T, Yamakawa T, Hirano K, et al.	総合診療科	The systemic immune response due to cholesterol crystal embolization syndrome: a case report BMC Nephrol.	a case report BMC Nephrol. 2022 Sep 19;23(1):314. doi: 10.1186/s12882-022-02939-9.	Case report

127	Shimizu T, Takaki M, Konagaya K, et al.	総合診療科	Posterior inferior pancreaticoduodenal artery aneurysm rupture due to median arcuate ligament syndrome.	Am J Med Sci. 2022 Dec;364(6):e89-e90. doi: 10.1016/j.amjms.2022.07.012.	Case report
128	Kakimoto S, Harada Y, Shimizu T.	総合診療科	Mullerian Duct Cyst Infection.	J Gen Intern Med.2022 Oct;37(13):3487-3488. doi: 10.1007/s11606-022-07710-2.	Case report
129	Yokose M, Shimizu T.	総合診療科	A Case of Delayed Diagnosis of Acute Pyelonephritis in a Horseshoe Kidney in an Elderly Patient.	Dokkyo Medical Journal 1(2): 124-126, 2022.	Case report
130	Otaka Y, Harada Y, Shimizu T.	総合診療科	Hypertrophic pachymeningitis in the context of the treatment of polymyalgia rheumatica.	BMJ Case Rep. 2022 Jun 20;15(6):e250450.	Case report
131	Otaka Y, Harada Y, Shimizu T.	総合診療科	Case of bilateral Bell's palsy.	BMJ Case Rep. 2022 Jun 10;15(6):e250364.	Case report
132	Sakamoto T, Asahara D, Shimizu T.	総合診療科	Intercostal retraction with pleural effusion.	AIM Clinical Cases. 2022; 1:e220001. doi:10.7326/aimcc.2022.001	Case report
133	Yamaguchi S, Terahara T, Okawa K, et al	麻酔科	Optimal opioid treatment requires a consensual approach.	Pain. 2022 May 1;163(5):1303-1312.	Others
134	Takasusuki Toshifumi; Hayashi Shinji; Koretaka Yuichi, et al	麻酔科	Prevalence of and Risk Factors for Prescription Opioid Misuse, Abuse, Diversion and Doctor Shopping in Japan: A Survey Study.	Pain Ther . 2022 Sep;11(3):987-1009.	Original Article
135	Yaguchi E, Ujita T, Hamaguchi S	麻酔科	Utility of 6% hydroxyethyl starch 130/0.4 in oral cancer surgeries with a duration of at least 6 hours: a retrospective case-control study.	Medicine (Baltimore) . 2023 Feb 17;102(7):e32958	Original Article

136	Ajima T, Yamaguchi S, Takasusuki T, et al	麻酔科	Effects of Peripheral Nerve Injury on the Kinetics of Electrically Evoked GABA Receptor-mediated Currents in GABAergic and Non-GABAergic Neurons of the Spinal Dorsal Horn	Dokkyo Medical Journal; 2022 Jun 1(2) 99-107	Original Article
137	Yoshimasa Nakazato, Shigeru Tsuchida, Atsuko Takada-Owada, et al.	病理診断科	Castleman disease and mimickers: Clinicopathological findings of atypical lymphoproliferative disorders associated with autoimmune disease.	J Clin Exp Hematop. 2022 Sep; 62: 119-126	Review
138	*Takao Takahashi, *Kazuyuki Ishida, Yasunori Emi, et al (*These authors contributed equally to this work).	病理診断科	Pathological Evaluation of Resected Colorectal Liver Metastases: mFOLFOX6 Plus Bevacizumab versus mFOLFOX6 Plus Cetuximab in the Phase II ATOM Trial.	Cancers (Basel). 2022 Sep; 14: 4392.	Original Article
139	Atsuko Takada-Owada, Hirotaka Fuchizawa, Toshiki Kijima, et al.	病理診断科	Cryptococcal Prostatitis Forming Caseous and Suppurative Granulomas Diagnosed by Needle Biopsy: A Case Report.	Int J Surg Pathol. 2022 Aug; 30: 586-589.	Case report
140	Yumi Nozawa, Kazuyuki Ishida, Niki Maiko, et al.	病理診断科	Mixed adenoneuroendocrine carcinoma of the non-ampullary duodenum with mismatch repair deficiency: a rare case report.	Med Mol Morphol. 2022 Sep; 55: 258-266.	Case report
141	Masato Onozaki, Yoshimasa Nakazato, Atsuko Takada-Owada, et al.	病理診断科	Gross Findings in Lymphadenectomy Specimens: Diagnosis and Differentiation of Malignant Lymphoma.	Dokkyo Medical Journal 2022 May; 1: 309-316.	Original Article
142	Nakajima M, Muroi H, Kikuchi M, et al.	上部消化管外科	Serum Heat-shock Protein 70 Level for Predicting Postoperative Morbidity in Patients with Esophageal Cancer	Dokkyo Medical J.2022 June; 1(2); 92-98	Original Article
143	Nakajima M, Muroi H, Kikuchi M, et al.	上部消化管外科	Strategy Treatment of cT4b Esophageal Squamous Cell Carcinoma Using Docetaxel, Cisplatin, and 5-Fluorouracil	Anticancer research. 2022 July;42(7), 3725-3733	Original Article

144	Takayanagi M, Nakamura T, Ihara K, et al.	上部消化管外科	A Case of Giant Lipoma of the Transverse Colon with Intussusception Treated Successfully by Laparoscopic Surgery	Dokkyo Medical J.2022 Dec; 1 (4) ; 362-366	Case report
145	Mori S, Mishima K, Ozaki T, et al	肝胆膵外科	Short-term Outcomes and Difficulty of Repeat Laparoscopic Liver Resection.	Ann Surg Open. 2022 Aug 1;3(3):e191.	Original Article
146	Suda K, Shimizu T, Ishizuka M, et al	肝胆膵外科	Laparoscopic surgery reduced frequency of postoperative small bowel obstruction, and hospital stay compared with open surgery in a cohort of patients with colorectal cancer: a propensity score matching analysis.	Surg Endosc. 2022 Dec;36(12):8790-8796.	Original Article
147	Sato S, Shimizu T, Ishizuka M, et al	肝胆膵外科	The preoperative pan-immune-inflammation value is a novel prognostic predictor for with stage I-III colorectal cancer patients undergoing surgery.	Surg Today. 2022 Aug;52(8):1160-1169.	Original Article
148	Matsumoto T, Aoki T, Shimizu T, et al	肝胆膵外科	Prognostic significance of preoperative hyaluronic acid level in patients with hepatocellular carcinoma.	HPB (Oxford). 2022 Apr;24(4):525-534.	Original Article
149	Shibasaki I, Ouchi M, Fukuda T, et al	心臓・血管外科	Effect of sarcopenia on hospital stay from post cardiac surgery to discharge	International journal of cardiology. Heart & vasculature 2022 Mar 18;39:101003. doi: 10.1016/j.ijcha.2022.101003.	Original Article
150	Shibasaki I, Ogawa H, Higuchi F, et al	心臓・血管外科	A modified surgical technique for the Jarvik 2000 using a postauricular approach	Surgery today 2022 May;52(5):863-865. doi: 10.1007/s00595-021-02368-5.	Original Article
151	Shibasaki I, Fukuda T, Ogawa H, et al	心臓・血管外科	Mid-term results of surgical aortic valve replacement with bioprostheses in hemodialysis patients	International journal of cardiology. Heart & vasculature 2022 Apr 11;40:101030. doi: 10.1016/j.ijcha.2022.101030.	Original Article

152	Shibasaki I, Nakajima T, Fukuda T, et al	心臓・血管外科	Serum and Adipose Dipeptidyl Peptidase 4 in Cardiovascular Surgery Patients: Influence of Dipeptidyl Peptidase 4 Inhibitors	Journal of clinical medicine 2022 Jul 26;11(15):4333. doi: 10.3390/jcm11154333.	Original Article
153	Saito S, Shibasaki I, Matsuoka T, et al	心臓・血管外科	Impella support as a bridge to heart surgery in patients with cardiogenic shock	Interactive cardiovascular and thoracic surgery 2022 Jul 9;35(2):ivac088. doi: 10.1093/icvts/ivac088.	Review
154	Shibasaki I, Masawa T, Abe S, et al	心臓・血管外科	Benefit of veno-arterial extracorporeal membrane oxygenation combined with Impella (ECPella) therapy in acute coronary syndrome with cardiogenic shock.	Journal of cardiology 2022 Aug;80(2):116-124. doi: 10.1016/j.jcc.2022.02.013. Epub 2022 Mar 12.	Original Article
155	Saito S, Sairenchi T, Hirota S, Niitsuma K, et al	心臓・血管外科	Prosthetic Valve Function after Aortic Valve Replacement for Severe Aortic Stenosis by Transcatheter Procedure versus Surgery	Journal of cardiovascular development and disease 2022 Oct 16;9(10):355. doi: 10.3390/jcdd9100355.	Original Article
156	Shibasaki I, Ogawa H, Masawa T, et al	心臓・血管外科	Timing of Surgery under Mechanical Circulatory Support for Ventricular Septal Rupture Due to Acute Myocardial Infarction	Dokkyo Medical Journal: 2022 Nov: Volume 1 Issue 3 235-246	Original Article
157	Shimizu R, Sumi M, Murakami Y, et al	心臓・血管外科	False lumen thrombus following aortic dissection diagnosed as the source of repeat lower extremity emboli with angioscopy: a case report	Surgical case reports 2022 Apr 13;8(1):65. doi: 10.1186/s40792-022-01416-7.	Case report
158	Takei Y, Shibasaki I, Suzuki K, et al	心臓・血管外科	Hemolytic anemia caused by an excessively kinked prosthetic graft after total arch replacement detected by 4-dimensional flow magnetic resonance imaging	Medicine (Baltimore) 2022 Jul 22;101(29):e29617. doi: 10.1097	Case report
159	Shibasaki I, Nakajima T, Matsuoka T, et al	心臓・血管外科	Immunoglobulin G4-related inflammatory pseudotumor of the right ventricle with right coronary artery occlusion	Journal of Cardiology Cases 2022 Jun 24;26(4):293-296. doi: 10.1016/j.jccase.2022.05.019.	Case report

160	Chida M, Inoue T, Araki O, et al.	呼吸器外科	Left-to-right rotated single lung transplant	Eur J Cardiothorac Surg• 2022 Jul 11;62(2):ezac369	Case report
161	Inoue H, Matsushima J, Kobayashi S, et al.	呼吸器外科	Expression of SATB2 in Neuroendocrine Carcinomas of the Lung: Frequent Immunopositivity of Large Cell Neuroendocrine Carcinoma with a Diagnostic Pitfall	Int J Surg Pathol•2022 Apr;30(2):151-159	Original Article
162	Morinaga Y, Akutsu H, Kino H et al.	脳神経外科	Endoscopic endonasal dural reconstruction for a cerebrospinal fluid leak in the middle cranial fossa of a patient with Gorham-stout disease with skull base defect	NMC Case Rep J. 2022 Apr 1;9:55-61. doi: 10.2176/jns-nmc.2021-0319	Case report
163	Iimura T, Ueda H, Inami S, et al.	整形外科	Thoracic kyphosis in light of lumbosacral alignment in thoracic adolescent idiopathic scoliosis: recognition of thoracic hypokyphosis and therapeutic implications.	BMC Musculoskelet Disord. 2022 May 3;23(1):414.	Original Article
164	Urita A, Endo T, Iwasaki N, et al.	整形外科	Giant Geode at the Humeral Head in the Rheumatoid Shoulder Treated With Allograft Bone Grafting and Shoulder Arthroplasty.	J Rheumatol. 2022 Oct;49(10):1174-1175.	Original Article
165	Suzuki I, Kijima T, Shimoda H, et al.	泌尿器科	A case of testicular torsion successfully treated with tunica albuginea incision and tunica vaginalis patch	Urol Case Rep . 2023 Mar;47:102373.	Case report
166	Yashi M, Nishihara D, Yokoyama M, et al.	泌尿器科	Plasma progastrin-releasing peptide level shows different predictive profiles for treatment response by androgen receptor axis-targeted agents in patients with metastatic castration-resistant prostate cancer	Cancer Rep (Hoboken). 2023 Mar;6(3):e1762.	Original Article

167	Yokoyama M, Suzuki I, Kijima T, et al.	泌尿器科	A case of self-inserted foreign body in the urinary bladder: Usefulness of three-dimensional reconstruction computed tomography for surgery planning	Int J Surg Case Rep. 2022 Jul 8;44:102161	Case report
168	Nakamura G, Nukui A, Suzuki I, et al.	泌尿器科	Successful management of ureteral injury after gender-affirming laparoscopic hysterectomy: A case report	Int J Surg Case Rep. 2022 Oct;99:107684.	Case report
169	Uematsu T, Kijima T, Takada-Owada A, et al.	泌尿器科	Presurgical avelumab plus axitinib in an immunosenescent octogenarian with renal cell carcinoma invading the vena cava	Urol Case Rep. 2022 Aug;45:102205.	Case report
170	Nakagawa T, Kijima T, Imasato N, et al.	泌尿器科	Efficacy of cabozantinib therapy for brain metastases from renal cell carcinoma.	IJU Case Rep. 2022 May;5(4):293-296.	Case report
171	Kijima T, Kubo T, Nishihara D, et al.	泌尿器科	Cancer immunohistogram representing cancer-immunity cycle by immunohistochemistry predicts the efficacy of immune checkpoint inhibitors in urological cancer patients.	Sci Rep. 2022 Jun	Original Article
172	Kamai T, Murakami S, Arai K, et al.	泌尿器科	Association of Nrf2 expression and mutation with Weiss and Helsinki scores in adrenocortical carcinoma.	Cancer Sci. 2022 Jul;113(7):2368-2377.	Original Article
173	Kijima T.	泌尿器科	Editorial Comment to A regressed germ cell tumor discovered secondary to azoospermia.	IJU Case Rep. 2022 Dec ;6(2):100.	Letter
174	Eiichiro Matsui, Hiroyuki Matsushima, Mayumi Nagata, Koichiro Mukai, Tadashi Senoo	眼科	Moisture Generation Mechanism of Intraocular Lenses during Fluid/Gas Exchange.	Dokkyo Medical Journal 1(3): 176-180, 2022.	Original Article

175	Satoru F, Yasuhiro T, Makoto A, et al	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Fibroepithelial Polyps of the Inferior Turbinate	Dokkyo Medical Journal 2022 Oct:131-134	Case report
176	Nakayama T, Lee IT, Lee W, et al	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Inflammatory molecular endotypes of nasal polyps derived from White and Japanese populations.	J Allergy Clin Immunol 2022 Apr:149(4):1296-1308	Original Article
177	Tatsuya Kobayashi; Akira Mitsuhashi; Piao Hongying, et al	産科婦人科	Bexarotene-induced cell death in ovarian cancer cells through Caspase-4-gasdermin E mediated pyroptosis.	Scientific reports 2022 Jul 1;12(1):11123.	Original Article
178	Katsuhiko Naruse	産科婦人科	Reply for the value of ultrasound imaging is not limited to advanced technology and skills.	Journal of medical ultrasonics (2001)2022 Jul;49(3):509.	Others
179	Akira Mitsuhashi, Hiroshi Ishikawa, Yuji Habu, et al	産科婦人科	The effect of steep head-down tilt on respiratory status in endometrial cancer patients with obesity during robot-assisted hysterectomy.	Gynecologic oncology reports 2022 May 30;41:101014.	Original Article
180	Fukumoto Chonji, Uchida Daisuke, Kawamata Hitoshi	口腔外科	Diversity of the Origin of Cancer Stem Cells in Oral Squamous Cell Carcinoma and Its Clinical Implications.	Cancers;2022 Jul 22;14(15):3588. doi: 10.3390/cancers14153588	Original Article
181	Hyodo Toshiki, Kuribayashi Nobuyuki, Fukumoto Chionji, et al	口腔外科	The mutational spectrum in whole exon of p53 in oral squamous cell carcinoma and its clinical implications.	Scientific reports;2022 Dec 15;12(1):21695. doi: 10.1038/s41598-022-25744-8.	Original Article
182	Chonji Fukumoto	口腔外科	Inflammation-based prognostic scores as prognostic factors in patients with oral squamous cell carcinoma after primary surgery: a single-center retrospective cohort study	Dokkyo Medical Journal 1(4);2022 Oct; p299-308	Original Article

183	Chonji Fukumoto, Manabu Zama, Toshiki Hyodo et al	口腔外科	Primary syphilis with a tongue ulcer mimicking tongue cancer: a case report	Journal of International Medical Research. 51(3);2023 Mar;51(3):3000605231161223.	Case report
184	Masataka Mizokami, Masaya Imanishi, Hirotaka Asato	形成外科・美容外科	Short-Term Resorption of Grafted Bone After Split Calvarial Bone Grafting for an Occipital Skull Defect in a Patient With Multisystem Langerhans Cell Histiocytosis	J Craniofac Surg . 2022 Jun 1;33(4):e362-e364	Case report
185	Yuko Tanaka, Miyuki Muramatsu, Yoshihiro Miyauchi, et al	総合がん診療センター	A case of advanced breast cancer with Gitelman syndrome	Int Cancer Conf J;2023 Jan 4;12(2):137-142. doi: 10.1007/s13691-022-00593-4.	Case report
186	Takekawa H, Tsukui D, Kobayasi S, et al	脳卒中センター	Point-of-care ultrasound for stroke patients in the emergency room	J Med Ultrason (2001)2022 Oct;49:581-592	Review
187	Takekawa H, Tsukui D, Kobayasi S, et al	脳卒中センター	Ultrasound diagnosis of carotid artery stenosis and occlusion	J Med Ultrason (2001)2022 Oct;49:675-687	Review
188	Sakuma M, Iimuro S, Shinozaki T et al.	再生医療センター	Optimal target of LDL cholesterol level for statin treatment: challenges to monotonic relationship with cardiovascular events.	BMC med. 2022 Nov 14;20(1):441.	Original Article

計188件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、または et al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること  
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。  
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 手順書の主な内容 本学の倫理審査委員会について、審査の流れ、手続きについて	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 12 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 規定の主な内容 利益相反管理の対象、利益相反管理委員会について、利益相反管理委員会の審査の流れ	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1 回(持回審査)

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年2回 + e-learning
・ 研修の主な内容 ○ 「生命・医学系指針」一部改正のポイント ○ e-learning教材「eAPRIN」医学研究者標準コース	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

1. 初期臨床研修

当院では初期臨床研修制度に規定される、基幹型臨床研修病院（大学病院）として、2年間の初期研修医教育を行っています。

プライマリ・ケアの習得を目的に、当院が擁する30診療科と臨床研修協力病院からなる病院群で研修を行うことにより、頻度の高い症例から高度医療まで網羅し、幅の広い初期臨床研修を行うことを可能としております。

当院における高度の医療に関する研修については、各診療科とも開業医及び市中病院より病診連携による紹介患者の受入れを実施しており、各種移植手術等の高難度手術適応患者の受入れや高度がん治療適用患者の受入れ、特定疾患治療等に代表される高度医療を実施し、同時に初期研修医・専攻医の診療参加および研修指導を実施しています。また、救急科研修においては当院の救命救急センターにて、救急車やドクターヘリによる3次救急患者（外傷・内疾患）の高度救命治療も研修カリキュラムの一環として組み込んでいます。

2. 専門研修

プライマリ・ケアを中心とした幅広い診療能力の習得を目的とする初期研修了後は、レジデントとして専門研修に続きます。

当院の専門研修は、これらの点を考慮して専門医研修が効果的に行われるように、診療各科の特徴を生かした専門研修プログラムとして、豊富な症例数と経験豊富な指導医により日本専門医機構が認定する全19基本領域の基幹プログラムを整備しています。また、当院では大学病院として高度医療を実施しており、サブスペシャリティ専門医資格の取得を目指す研修も可能です。

以上の研修プログラムにより専門医の育成・輩出を通じ地域医療への貢献に務めています。研修プログラム一覧は以下のとおりです。

【日本専門医機構認定 基本領域専門研修プログラム一覧（基幹プログラム）】

※歯科口腔外科を除く

- ①内科（総合内科） 獨協医科大学病院内科専門医養成プログラム
- ②小児科 獨協医科大学病院小児科専門医養成プログラム
- ③皮膚科 獨協医科大学病院皮膚科研修プログラム
- ④精神科 獨協医科大学病院精神科専門医育成プログラム
- ⑤外科 獨協医科大学外科専門研修プログラム
- ⑥整形外科 獨協医科大学病院整形外科専門医養成プログラム
- ⑦産科婦人科 獨協医科大学病院産婦人科専門研修プログラム
- ⑧眼科 獨協医科大学病院眼科専門医養成プログラム
- ⑨耳鼻咽喉科 獨協医科大学病院耳鼻咽喉・頭頸部外科専門医養成プログラム
- ⑩泌尿器科 獨協医科大学病院泌尿器科専門研修プログラム
- ⑪脳神経外科 獨協医科大学脳神経外科専門研修プログラム

- ⑫放射線科 獨協医科大学病院放射線科専門研修プログラム
- ⑬麻酔科 獨協医科大学病院麻酔科専門医研修プログラム
- ⑭病理診断科 獨協医科大学病院病理専門研修プログラム
- ⑮臨床検査科 獨協医科大学病院臨床検査専門研修プログラム
- ⑯救急科 獨協医科大学病院救急科専門医研修プログラム
- ⑰形成外科 獨協医科大学形成外科研修プログラム
- ⑱リハビリテーション科  
獨協医科大学病院リハビリテーション科専門医養成プログラム
- ⑲総合診療科（家庭医）  
獨協医科大学病院総合診療専門医養成プログラム

口腔外科（歯科医師） 口腔外科専門医取得コース

（注）上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

## 2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	105人（歯科医師含む）
-------------	--------------

（注）前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

## 3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
豊田 茂	心臓・血管内科/循環器内科	主任教授	30年	
入澤 篤志	消化器内科	主任教授	34年	
三谷 絹子	血液・腫瘍内科	主任教授	38年	
頼 建光	腎臓・高血圧内科	主任教授	31年	
鈴木 圭輔	脳神経内科	主任教授	21年	
麻生 好正	内分泌代謝内科	主任教授	34年	
仁保 誠治	呼吸器・アレルギー内科	主任教授	29年	
倉沢 和宏	リウマチ膠原病内科	主任教授	40年	
志水 太郎	総合診療科	主任教授	17年	
下田 和孝	精神神経科	主任教授	39年	
井川 健	皮膚科	主任教授	27年	
楫 靖	放射線科	主任教授	33年	
小飼 貴彦	ゲノム診断・臨床検査医学	主任教授	30年	

吉原 重美	小児科	主任教授	39 年	
小嶋 一幸	外科 (上部消化管外科)	主任教授	36 年	
青木 琢	外科 (肝・胆・膵外科)	主任教授	28 年	
阿部 暁人	乳腺科	学内講師	21 年	
福田 宏嗣	心臓・血管外科	主任教授	35 年	
千田 雅之	呼吸器外科	主任教授	37 年	
阿久津 博義	脳神経外科	主任教授	25 年	
種市 洋	整形外科	主任教授	36 年	
釜井 隆男	泌尿器科	主任教授	31 年	
妹尾 正	眼科	主任教授	36 年	
春名 眞一	耳鼻咽喉・頭頸部外科	主任教授	38 年	
三橋 暁	産科婦人科	主任教授	32 年	
美津島 隆	リハビリテーション科	主任教授	33 年	
朝戸 裕貴	形成外科・美容外科	主任教授	38 年	
濱口 眞輔	麻酔科	主任教授	33 年	
山口 重樹	麻酔科	主任教授	30 年	
小野 一之	救急科 (救命救急センター)	主任教授	40 年	
石田 和之	病理診断科	主任教授	24 年	
川又 均	歯科口腔外科	主任教授	36 年	歯科医師

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

- ・ インジェクショントレーナー養成研修『薬理を含めた薬剤知識』2022/10/14 全21名
- ・ 令和4年度 第1回放射線部一般撮影・撮影検討会  
「膝関節撮影」  
日時：令和4年5月20日（金） 時間：16：30～17：00  
参加人数： 13名
- ・ 令和4年度 第1回役職者研修会  
「順天堂大学 臨床実習終了報告」  
日時：令和4年6月2日（木） 時間：17：00～17：30  
参加人数： 15名（臨床実習生：1名）
- ・ 令和4年度 第2回役職者研修会  
「帝京大学 臨床実習終了報告」  
日時：令和4年6月16日（木） 時間：17：00～17：30  
参加人数： 21名（臨床実習生：1名）
- ・ 令和4年度 第3回役職者研修会  
「群馬パース大学 臨床実習終了報告」  
日時：令和4年7月14日（木） 時間：17：10～17：30  
参加人数： 23名（臨床実習生：4名）
- ・ 令和4年度 第4回役職者研修会  
「帝京大学 臨床実習終了報告」  
日時：令和4年7月28日（木） 時間：17：10～17：30  
参加人数： 11名（臨床実習生：1名）
- ・ 令和4年度 第1回放射線部勉強会

「第38回日本放射線技師学術大会（神戸） 予行会」

- ① 血管撮影装置における装置表示による線量記録誤差の検討（村岡 祐基）
- ② ディープラーニングによるノイズ低減処理を用いた腰椎側面撮影における撮影条件の検討（金子 晶子）
- ③ ディープラーニングによるノイズ低減処理の基礎的検討（近藤 綾香）
- ④ 高密度Pixel-aligned grid使用時におけるグリッドアーチファクト発生の検討（瀬崎 英典）

日時：令和4年9月8日（木） 時間：17：10～18：20

参加人数： 17名

・令和4年度 第2回放射線部勉強会

「第50回日本放射線技術学会秋季学術大会 予行会」

- ① ディープラーニングによるノイズ低減処理を用いた胸部単純X線撮影における撮影条件の検討-人体ファントムを用いた視覚評価-（木村 友昭）
- ② ディープラーニングによるノイズ低減処理の基礎的検討 -（Task-based MTFを用いて-（高田 実徳）
- ③ 高密度Pixel-aligned grid使用時における臨床利用の有用性-頭部ファントムを用いた視覚評価-（瀬崎 英典）

日時：令和4年9月29日（木） 時間：17：10～18：20

参加人数： 15名

・令和4年度 第5回放射線部一般撮影・撮影検討会

「胸部正面撮影」

日時：令和4年10月7日（金） 時間：16：30～17：00

参加人数： 10名

・令和4年度 第5回役職者研修会

「帝京大学 臨床実習終了報告」

日時：令和4年12月1日（木） 時間：17：10～17：30

参加人数： 10名（臨床実習生：1名）

・令和4年度 第6回役職者研修会

「国際医療福祉大学 臨床実習終了報告」

日時：令和4年12月8日（木） 時間：17：10～17：50

参加人数： 16名（臨床実習生：7名）

・令和4年度 第3回放射線部勉強会

「第18回 栃木県放射線技師会学術研究発表会 予行会」

- ① ディープラーニングによるノイズ低減処理を用いた小児撮影における撮影条件の検討ー  
（瀬崎 英典）
- ② X線CT装置における異なる測定法での実効エネルギーの比較 （金子 凌大）
- ③ 血管撮影に用いる患者被覆型防護シールドの使用位置における被ばく低減効果の違い  
（村岡 祐基）
- ④ SPECT/CT装置への更新とその使用経験 （大塚 弘晃）
- ⑤ PRRT治療における特別措置病室の準備と実際 （新井 和浩）

日時：令和5年2月22日（水） 時間：17：10～18：20

参加人数： 15名

・令和3年度獨協医科大学教育セミナー：2022年4月4日～5月1日 84名

・第71回日本医学検査学会in大阪予演会：2022年4月15日 21名

・第8回日本医療安全学会学術総会予演会：2022年5月24日 49名

・栃木県立衛生福祉大学校臨床検査学科実習生臨地実習報告会：2022年7月12日 27名

・栃木県立衛生福祉大学校臨床検査学科実習生臨地実習報告会：2022年8月4日～8月18日 55名

・2022年度関甲信支部・首都圏支部医学検査学会（第58回）第1回予演会：2022年9月1日 37名

・2022年度関甲信支部・首都圏支部医学検査学会（第58回）第2回予演会：2022年9月2日 35名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

- ・新規採用薬説明会（セリンクロ錠10mg、オビドレル皮下注シリンジ250 $\mu$ g、アイラミド配合懸濁性点眼液）2022/4/13 全26名
- ・新規採用薬説明会（コムクロシャンプー0.05%、パキロビッドパック）2022/4/27 全24名
- ・新規採用薬説明会（オキシコドン錠2.5mgNX・5mgNX、バクタミニ配合錠、コラテジェン筋注用4mg）2022/5/25 全21名
- ・新規採用薬説明会（ルマケラス錠120mg、カプレルサ錠100mg）2022/6/8 全22名
- ・新規採用薬説明会（プレジコビックス配合錠、ピヴラッツ点滴静注液150mg）2022/6/22 全26名
- ・新規採用薬説明会（バビースモ硝子体内注射液120mg/mL、ウィフガード点滴静注400mg）2022/7/13 全21名
- ・新規採用薬説明会（スピラマイシン錠150万単位、オゼンピック皮下注2mg、ビンゼレックス皮下注160mgオートインジェクター）2022/7/27 全24名
- ・新規採用薬説明会（ケレンディア錠10mg・20mg、アロカリス点滴静注235mg、セムブリックス錠20mg・40mg）2022/8/10 全21名
- ・新規採用薬説明会（リフヌア錠45mg、ジビイ静注用2000、サムタス点滴静注用8mg）2022/8/24 全19名
- ・新規採用薬説明会（カログラ錠120mg、ビベスピエアロスフィア120吸入、ビレーズトリエアロスフィア120吸入）2022/9/14 全30名
- ・新規採用薬説明会（レイボー錠50mg・100mg、ミネブロOD錠1.25mg・2.5mg・5mg、レフィキシア静注用2000）2022/9/28 全27名
- ・新規採用薬説明会（モビコール配合内服剤LD・HD、モイゼルト軟膏0.3%・1%）2022/10/12 全21名
- ・新規採用薬説明会（ラピフォートワイプ2.5%、ロゼックスゲル0.75%、ルタテラ静注、ライザケア輸液）2022/10/26 全29名

- ・新規採用薬説明会（タブネオスカプセル10mg、オンデキサ静注用200mg、ミチーガ皮下注用60mgシリンジ） 2022/11/9 全12名
- ・新規採用薬説明会（ネクスピアザイム点滴静注用100mg、ジスバルカプセル40mg、オンデキサ静注用200mg、関プロ参加報告会①） 2022/11/30 全30名
- ・新規採用薬説明会（ステルイズ水性懸濁筋注240万単位シリンジ、血友病について、関プロ参加報告会②） 2022/12/7 全26名
- ・がんの資格取り方解説 2022/12/20 全4名
- ・新規採用薬説明会（トリセノックス点滴静注12mg、ジェセリ錠40mg、エバシエルド筋注セット） 2022/12/21 全17名
- ・新規採用薬説明会（イグザレルト錠2.5mg、エパデールEMカプセル2g） 2023/1/11 全20名
- ・イミフィンジの胆道がんと肝がんに対する適応について 2023/1/18 全7名
- ・新規採用薬説明会（ボックスゾゴ皮下注用0.4mg・0.56mg・1.2mg、ユルトミリスHI点滴静注300mg/3mL） 2023/1/25 全18名
- ・新規採用薬説明会（コセルゴカプセル10mg・25mg、テゼスパイア皮下注210mgシリンジ、ゾコーバ錠125mg） 2023/2/1 全29名
- ・新規採用薬説明会（アジョビ皮下注225mgオートインジェクター、ジクアスLX点眼液3%、メトジェクト皮下注7.5mg・10mg・12.5mgシリンジ） 2023/2/15 全22名
- ・キイトルーダ・レンビマ リモート勉強会 2023/2/27 全11名
- ・新規採用薬説明会（スベピゴ点滴静注450mg、ジーラスタ皮下注3.6mgボディーポッド、ソーテイクツ錠6mg） 2023/3/1 全18名
- ・新規採用薬説明会（ナノゾラ皮下注30mgシリンジ、アイベータ配合点眼液、ブリンゾラミド懸濁性点眼液1%） 2023/3/15 全20名
- ・放射線部 X線防護シールドシステム説明会  
「ラドパッドエックス線防護シールド説明」

日時：令和4年6月8日(水)、6月30日(火)

時間：17:00～17:40

参加人数：28名

・令和4年度 第1回役職者定例報告会

日時：令和4年4月21日（金） 時間：17:00～18:00

参加人数：17名

・令和4年度 第2回役職者定例報告会

日時：令和4年5月19日（木） 時間：16:30～17:30

参加人数：17名

・令和4年度 第3回役職者定例報告会

日時：令和4年6月23日（木） 時間：16:30～17:30

参加人数：19名

・令和4年度 第4回役職者定例報告会

日時：令和4年7月21日（木） 時間：17:00～18:20

参加人数：16名

・令和4年度 第5回役職者定例報告会

日時：令和4年8月25日（木） 時間：17:00～18:20

参加人数：17名

・令和4年度 第6回役職者定例報告会

日時：令和4年9月27日（火） 時間：17:00～18:00

参加人数：20名

・令和4年度 第7回役職者定例報告会

日時：令和4年10月20日（木） 時間：17:10～18:15

参加人数：18名

・令和4年度 第8回役職者定例報告会

日時：令和4年11月17日（木） 時間：17:10～18:00

参加人数：16名

- ・令和4年度 第9回役職者定例報告会

日時：令和4年12月22日（木） 時間：17：10～17：40

参加人数：11名

- ・令和4年度 第10回役職者定例報告会

日時：令和5年1月26日（木） 時間：17：10～17：50

参加人数：16名

- ・令和4年度 第11回役職者定例報告会

日時：令和5年2月24日（金） 時間：17：10～17：50

参加人数：16名

- ・令和4年度 第12回役職者定例報告会

日時：令和5年3月23日（木） 時間：17：10～17：50

参加人数：19名

- ・微生物仮到着確認実施研修：2022年4月20日から5月31日 37名
- ・血沈代替え機操作研修：2022年7月1日から7月7日 17名
- ・SARS-CoV2 PCR検体のLAINS到着確認運用研修：2022年7月1日から7月30日
- ・IS015189 緊急時・災害時の対応：2022年7月1日から7月18日 84名
- ・全自動尿分析装置US3500宿日直研修：2022年7月12日から7月30日 39名
- ・IS015189 感染対策：2022年7月20日から8月3日 84名
- ・医学系研究に関する倫理講習：2022年8月15日から10月31日 84名
  - ・IS015189 患者急変時の対応：2022年9月1日から9月15日 84名
  - ・IS015189 倫理規定・患者情報の守秘義務：2022年9月16日から9月30日 84名
- ・SARS-CoV2, インフルエンザ抗原キット検査法研修：2022年9月26日から10月31日 44名
- ・IS015189 毒物・劇物管理、廃棄物管理：2022年10月1日から10月16日 84名
- ・電子カルテ患者情報検索講習会：2022年10月4日 24名

- ・ IS015189 (QMS) を理解しよう : 2022年10月17日から10月31日 84名
- ・ IS015189 臨床検査センター医療安全講習会 : 2022年11月1日から11月14日 84名
- ・ ルミパルスL2400研修 : 2022年12月5日 17名
- ・ POC装置管理システムAQUIRE研修 : 2022年12月21日から12月22日 11名
- ・ TRC-Ready機器研修 : 2023年1月30日から3月4日 6名
- ・ 心電図自動受付に伴う受付変更研修 : 2023年2月16日から3月3日 63名
- ・ 迅速PCR検査結果報告の掲示板入力方法研修 : 2023年2月27日から3月10日 46名
- ・ 心電図自動受付運用変更研修 : 2023年3月14日 11名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- ・ 地域薬学ケア研修 : 地域薬学ケア研修 - 卵巣がんの治療について (40分) 2022/4/13 全4名
- ・ 地域薬学ケア研修 : 地域薬学ケア研修 - 肺がんの治療について (30分) 2022/4/20 全4名
- ・ 地域薬学ケア研修 : アイン薬局との薬薬連携連携会議 (TR) 1回目開催 (60分) 2022/4/25 全4名
- ・ 地域薬学ケア研修 : 地域薬学ケア研修 - 卵巣がんの症例報告 (30分) 2022/4/27 全4名
- ・ 地域薬学ケア研修 : 薬局症例報告 (4症例) 2022/5/11 全4名
- ・ 地域薬学ケア研修 : 薬局症例報告 (5症例) 2022/5/18 全4名
- ・ 地域薬学ケア研修 : 肝移植の症例報告2022/5/25 全4名
- ・ 地域薬学ケア研修 : 食道がんの治療について (50分) 2022/6/1 全4名
- ・ 地域薬学ケア研修 : 小児がんALLについて (30分) 2022/6/8 全4名
- ・ 地域薬学ケア研修 : 抗がん剤の基礎知識について (30分) 2022/6/22 全4名
- ・ 地域薬学ケア研修 : 地域薬学ケア研修 - 抗がん剤の暴露対策 (30分) 2022/7/6 全4名
- ・ 地域薬学ケア研修 : 地域薬学ケア研修 - 小児がん (30分) 2022/7/20 全4名
- ・ 地域薬学ケア研修 : 地域薬学ケア研修 - 食道がんの症例紹介 (30分) 2022/7/27 全4名
- ・ 地域薬学ケア研修 : 地域薬学ケア研修 - 皮膚障害 (30分) 2022/8/3 全4名

- ・地域薬学ケア研修： 地域薬学ケア研修 - 子宮頸がん (30分) 2022/8/17 全4名
- ・地域薬学ケア研修： 地域薬学ケア研修 - 子宮頸がんの最初から最後まで (50分) 2022/8/24  
全4名
- ・地域薬学ケア研修： 症例報告 (5症例) 2022/9/7 全4名
- ・地域薬学ケア研修： 症例報告 (5症例) 2022/9/21 全4名
- ・地域薬学ケア研修： 症例の書き方/教育に関するエビデンス2022/9/28 全4名
- ・地域薬学ケア研修： 症例報告2022/10/2 全4名
- ・地域薬学ケア研修： 緩和ケアについて2022/10/19 全4名
- ・地域薬学ケア研修： TRのフィードバック会、研修生が病棟報告会に参加予定2022/10/28  
全4名
- ・地域薬学ケア研修： ウェブ会議症例報告、病院内でのカンファレンス参加開始2022/11/8  
全4名
- ・地域薬学ケア研修： 心臓循環器カンファレンス2022/11/24 全4名
- ・地域薬学ケア研修： 病棟報告会参加2022/11/25 全4名
- ・地域薬学ケア研修： 小児科カンファレンス2022/11/28 全4名
- ・地域薬学ケア研修： NSTカンファレンス2022/12/8 全4名
- ・地域薬学ケア研修： 症例報告2022/12/14 全4名
- ・地域薬学ケア研修： NSTカンファレンス 2022/12/15 全4名
- ・地域薬学ケア研修： 症例報告2022/12/21 全4名
- ・地域薬学ケア研修： 論文抄録 COVID-19 オミクロン株 に対する ワクチンの効果について  
2023/1/4 全4名
- ・地域薬学ケア研修： NST 2023/1/9 全4名
- ・地域薬学ケア研修： 論文抄録 コーヒーの予防効果について2023/1/24 全4名
- ・地域薬学ケア研修： アイン薬局との薬薬連携討論会2023/1/27 全4名
- ・地域薬学ケア研修： 地域薬学ケアNSTカンファレンス2023/2/2 全4名

- ・地域薬学ケア研修：症例報告（5症例）2023/2/15 全4名
- ・地域薬学ケア研修：病棟報告会2023/2/24 全4名
- ・地域薬学ケア研修：地域薬学ケア2023/3/2 全4名
- ・地域薬学ケア研修：症例報告（4症例）2023/3/13 全4名
- ・地域薬学ケア研修：病棟報告会2023/3/24 全4名
- ・薬業連携セミナー：トレーシングレポートの報告2022/4/25 複数名
- ・薬業連携セミナー：膀胱がん2022/5/27 全171名
- ・薬業連携セミナー：肺がん2022/8/26 全77名
- ・薬業連携セミナー：大腸がん2023/2/10 全112名
- ・令和4年度 三病院合同役職者研修会

（獨協医科大学病院・獨協医科大学埼玉医療センター・獨協医科大学日光医療センター）

【日光医療センター モダリティー別新病院移転に向けた取り組み】

「一般撮影・造影部門」 「血管部門」 「CT部門」 「MRI部門」

【ランチョンセミナー】

「富士フィルムメディカル・フィリップスジャパン」

日時：令和5年2月18日（土）

会場：獨協医科大学新日光医療センター 2階大会議室

時間：10：30～14：00

参加人数：15名

- ・栃木県立衛生福祉大学校 臨床検査学科実習生の臨地実習

2022年4月11日～7月12日 60日間 2名 8:30～17:00（実施要項に基づき各検査部門研修）

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

対象者	内容	開催日	人数	合計人数
新採用看護職者	新人オリエンテーション	4月初旬	151	
全職種	看護部の方針説明会 (Web配信)	4月25日	1181	
	看護研究発表会 (Web配信)	6月	1031	
	看護研究発表会 (Web配信)	11月	926	
全看護師	看護補助者との協働 (Web配信)	4月～4月30日	1118	
	看護必要度 (Web配信)	10月31日	1091	
	認知症患者さんへの接し方 (Web配信)	3月23日～3月31日	1054	
レベルⅠa	シリンジポンプ・輸液ポンプの構造と正しい使用方法	4月6日～5月6日	各4～6	151
	災害看護	4月20日 (水)	49	150 (欠席3)
		4月21日 (木)	53	
		4月22日 (金)	48	
	社会人基礎力	5月19日 (水)	58	150
		5月26日 (木)	46	
		5月27日 (金)	46	
	私の看護エピソード発表会	①2月2日	5	135 (欠席2)
		②2月2日	5	
		③2月2日	5	
		④2月2日	5	
		⑤2月2日	5	
		⑥2月2日	5	
		①2月3日	6	
		②2月3日	6	
		③2月3日	6	
		④2月3日	5	
		⑤2月3日	5	
		⑥2月3日	6	
		①2月9日	6	
②2月9日		6		
③2月9日		6		
④2月9日		6		
⑤2月9日		6		
⑥2月9日		6		
①2月10日		6		
②2月10日		5		
③2月10日		6		
④2月10日		6		
⑤2月10日		6		
⑥2月10日		6		

レベルⅠb	フィジカルアセスメント	7月6日(水)	36	108
		7月7日(木)	40	
		7月8日(金)	32	
	退院支援	10月5日(水)	34	101
		10月6日(木)	32	
		10月7日(金)	35	
	看護を語ろう (院内Zoom開催)	①11月14日	15	96
		②11月14日	16	
		①11月16日	17	
		②11月16日	16	
①11月21日		16		
②11月21日		16		
レベルⅡ	コミュニケーション (2021年度フォローアップ研修)	6月8日(水)	28	75 (欠席1名)
		6月9日(木)	24	
		6月10日(金)	23	
	ケーススタディ研修会	9月21日(水)	13	75
		9月22日(木)	10	
		9月26日(月)	13	
		9月27日(火)	13	
		9月28日(水)	8	
		9月29日(木)	10	
		9月30日(金)	8	
	ケーススタディ発表会	①10月14日(金)	18	74
		②10月14日(金)	19	
		①10月21日(金)	18	
		②10月21日(金)	19	
	リーダーシップ	11月9日(水)	25	74
		11月10日(木)	26	
11月11日(金)		23		
レベルⅢ	研究入門	5月17日(火)	39	243
	研究デザイン(量) Web配信	6月24日(金)	87	
	研究デザイン(質)	7月15日(金)	47	
	研究アドバイス(個別相談会)	8月26日(金)	11	
		9月2日(金)	7	
	倫理審査の受け方	WEB		
	論文の作成方法	9月13日(火)	67	
	発表の仕方	10月11日(火)	25	
発表会	1月6日(金)	6		
新人看護 職員指導者	部署指導者の役割	5月12日(木) ①②	48	48
新人教育 実施看護師	部署指導者の役割	5月12日(木) ①②	73	73
実習指導者	実習指導者の役割	①5月18日	32	70
	実習指導者の役割	②5月18日	38	

看護補助者	看護補助者の役割	① 4月26日（火）	28	101
		② 4月26日（火）	27	
		① 4月28日（木）	26	
		② 4月28日（木）	20	
師長	看護必要度によるリスキング（Web）	9月15日（木）	41	265
		9月22日（木）	36	
	看護職員の賃金制度の抜本的見直しに関する勉強会 （日本看護協会Web）	2023年2月15日（木）	41	
	社会人基礎力（Web）	2023年2月WEB	49	
	新人（再送）（Web）		49	
	SD看護補助者協働研修（WEB）	12月16日・19日	49	
主任	社会人基礎力（WEB）	2023年2月WEB	53	212
	新人（再送）（Web）		53	
	病棟のチーム力を上げるコミュニケーション向上セミナー（Web）	11月11日～24日	53	
	SD看護補助者協働研修（WEB）	12月16日・19日	53	

## (様式第 5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画    ○ 2. 現状
管理責任者氏名	病院長 麻生好正
管理担当者氏名	庶務課                    手塚 節子                    医事保険課                    車田 みゆき 診療記録管理部        石川 昌宏                    医療安全推進センター        牧 尚伸 医療連携部門            渡邊 孝幸                    感染制御センター            麻生 保 経理課                    吉田 裕一                    臨床研修センター            石橋 広昭 薬剤部                    臼井 悟

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	庶務課	
		各科診療日誌	庶務課	
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	診療記録管理部	
		看護記録	診療記録管理部	
		検査所見記録	診療記録管理部	
		エックス線写真	診療記録管理部	
		紹介状	診療記録管理部	
退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書			診療記録管理部	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	庶務課	
		高度の医療の提供の実績	医事保険課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事保険課	
		高度の医療の研修の実績	庶務課 臨床研修センター	
		閲覧実績	庶務課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医療連携部門 医事保険課	
	規則第一条の十一第一項に掲げる事項	規則第一条の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事保険課 薬剤部
			医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全推進センター
			医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全推進センター
			医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全推進センター
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全推進センター	

診療録は、1患者1ID制で診療記録管理部が一元管理しており、電子カルテについては、真正性・見読性・保存性の確保に基づき、医療情報委員会が運用・管理している。

診療録の院外持ち出しは原則禁止としており、やむを得ず、院外に持ち出す場合には、匿名化されている情報については所属長、匿名化されていない情報は所定の申請書により所属長及び病院長の許可を得ることになっている。

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御センター
	第二項	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御センター
	第一号	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御センター
	第三号	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御センター
	第四号	医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
	第五号	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
	第六号	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
	第七号	医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
	第八号	医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学部
	第九号	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部 経理課
	第十号	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部 経理課
第十一号	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全推進センター
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御センター
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全推進センター
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療記録管理部
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全推進センター
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全推進センター
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	薬剤部
		監査委員会の設置状況	医療安全推進センター
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全推進センター
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全推進センター 感染制御センター
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全推進センター
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全推進センター
		職員研修の実施状況	庶務課 医療安全推進センター 感染制御センター SDセンター
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全推進センター
管理者が有する権限に関する状況	庶務課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	庶務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	庶務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

## 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

### ○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画    ○ 2. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 麻生 好正
閲覧担当者氏名	庶務課長 手塚節子
閲覧の求めに応じる場所	事務部
閲覧の手続の概要 ① 閲覧希望者より当院所定の申請書の提出 ② ①により、病院長までの上申 ③ ②により、本人確認(身分証明書等の提示)の後に情報開示	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

### ○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○医療安全管理に関する基本的な考え方</li> <li>○組織に関する基本的事項</li> <li>○医療安全推進センターの設置に関する基本方針</li> <li>○医療安全管理委員会の設置に関する基本方針</li> <li>○監査委員会による外部監査に関する基本方針</li> <li>○特定機能病院間相互のピアレビューに関する基本方針</li> <li>○医療に係る安全管理のための職員研修に関する基本方針</li> <li>○事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針</li> <li>○医療事故発生時の対応に関する基本方針</li> <li>○高難度新規医療技術、未承認新規医薬品等の医療提供に関する基本方針</li> <li>○患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針</li> <li>○患者からの相談への対応に関する基本方針</li> <li>○その他医療安全の推進のために必要な基本方針</li> <li>○本指針の改廃</li> </ul>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設置の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 ）</li> <li>・ 開催状況：年12回</li> <li>・ 活動の主な内容：</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○医療に係る安全管理のための指針(基本方針)に関すること</li> <li>○医療安全管理委員会の規程に関すること</li> <li>○医療安全対策の検討及び研究に関すること</li> <li>○医療事故の調査・分析及び再発防止策の立案、実施、周知に関すること</li> <li>○医療安全対策のための職員に対する指示に関すること</li> <li>○医療安全対策の実施状況の調査、確認に関すること</li> <li>○医療事故防止のための啓発、教育、広報及び出版に関すること</li> <li>○監査委員会からの指摘に関すること</li> <li>○内部通報窓口の設置に関すること</li> <li>○医療安全に関する診療内容のモニタリングに関すること</li> </ul>	

○院内巡視（ラウンド）に関すること

○病院長への報告基準（全死亡事例の報告及び一定水準以上の有害事象等の報告）に関すること

○その他医療安全対策に関すること

③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況

年35回

・ 研修の内容（すべて）：

○開催日；令和4年4月1日（金）

形態；新規採用者オリエンテーション（医師、看護師、その他医療従事者）

テーマ；「当院での医療安全の取り組みについて」

「当院における個人情報保護について」

「医薬品安全管理について」

「医療機器安全管理について」

講師；医療安全推進センター 医療安全管理部門長 辰元宗人

医療安全推進センター 医療安全管理者 河野由江

医療安全推進センター 医療安全管理者 鈴木佳世子

薬剤部 部長 医薬品安全管理責任者 臼井 悟

臨床工学部 技師長 山口剛史

参加者；180名

○開催日；令和4年4月5日（火）

形態；新規採用者オリエンテーション（臨床研修医）

テーマ；「当院での医療安全の取り組みについて」

「当院における個人情報保護について」

講師；医療安全推進センター 医療安全管理部門長 辰元宗人

参加者；53名

○開催日；令和4年4月～令和5年3月（2回／月） 全24回

形態；中途／復職者オリエンテーション

テーマ；「当院での医療安全の取り組みについて」

「当院における個人情報保護について」

「薬剤管理について」

「医療機器安全管理について」

講師；医療安全推進センター 医療安全管理部門長 辰元宗人

医療安全推進センター 医療安全管理者 河野由江  
医療安全推進センター 医療安全管理者 鈴木佳世子  
医療安全推進センター 医療安全管理者 椎名治揮  
臨床工学部 技師長 山口剛史

参加者；234名

うち、医師／レジデント、臨床研修医 35名  
その他医療従事者 199名

○開催期間；令和4年7月1日（金）～令和4年9月30日（金）

形態；2022年度セイフティマネージャー研修①

テーマ；「コンフリクトマネジメント（紛争発見時の対応）」

開催方法；e-ラーニング+学習効果判定テスト

参加者；47名（対象；2022年度新任セイフティマネージャー）

○開催期間；令和4年7月1日（金）～令和4年9月30日（金）

形態；2022年度セイフティマネージャー研修②

テーマ；「コンフリクトマネジメント（紛争解決の対応）」

開催方法；e-ラーニング+学習効果判定テスト

参加者；47名（対象；2022年度新任セイフティマネージャー）

○開催期間；令和4年7月1日（金）～令和4年9月30日（金）

形態；2022年度セイフティマネージャー研修③

テーマ；「医療事故調査制度」

開催方法；e-ラーニング+学習効果判定テスト

参加者；53名（対象；2022年度再任セイフティマネージャー）

○開催期間；令和4年7月1日（金）～令和4年9月30日（金）

形態；2022年度セイフティマネージャー研修④

テーマ；「医療事故調査制度（事故の再発防止に向けた提言）」

開催方法；e-ラーニング+学習効果判定テスト

参加者；53名（対象；2022年度再任セイフティマネージャー）

○開催期間；令和4年6月1日（水）～7月31日（日）

形態；講習会（第1回医療安全講習会）

講師；病院長 麻生好正

医療安全推進センター長 福田宏嗣

テーマ；「医師働き方改革2024に向けて」、「世界一安全な大学病院を

目指して」

開催方法；e-ラーニング+学習効果判定テスト

参加者；2,292名

○開催期間；令和4年7月14日（木）、8月1日（月）～9月30日（金）

形態；講習会（第2回医療安全講習会）

講師；宮崎大学医学部社会医学講座 生命・医療倫理学分野

教授 板井孝彦 先生

テーマ；「現場実践に活かす「医療安全」と「臨床倫理」の考え方」

開催方法；Web開催、e-ラーニング+学習効果判定テスト

参加者；2,443名

○開催期間；令和4年9月5日（月）、9月22日（火）～11月30日（水）

形態；講習会（第3回医療安全講習会）

講師；江戸川大学 メディアコミュニケーション学部

教授 隈本邦彦 先生

テーマ；「患者・患者家族から見た医療安全」

開催方法；Web開催、e-ラーニング+学習効果判定テスト

参加者；1,958名

○開催期間；令和4年12月1日（木）～令和5年1月31日（火）

形態；講習会（第4回医療安全講習会）

講師；獨協医科大学 教育支援センター医事法制研究室

学内講師 上杉奈々

テーマ；「適切な個人情報取り扱いを振り返ってみましょう」

開催方法；e-ラーニング+学習効果判定テスト

参加者；1,382名

○開催期間；令和5年3月1日（水）～3月31日（金）

形態；講習会（第5回医療安全講習会）

講師；小グループ代表者6名

テーマ；セイフティマネージャー小委員会活動内容報告

① グループ：心電図モニター関連

② グループ：医療安全文化調査

③ グループ：安全器材の使用

④ グループ：離床感知システム導入

⑤ グループ：ポリファーマシー

⑥ グループ：院内ラウンド

開催方法；e-ラーニング

参加者；658名

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備（・無）
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
  - 1) 標準化・規則化等の推進
  - 2) 定期的な医療安全管理部門広報（ニュースレター）の発行（1回／月）
  - 3) 病院幹部、医療安全管理委員会による院内ラウンド
  - 4) 医療安全講習会の理解度確認のためのe-ラーニングの導入
  - 5) 必要に応じたRCA分析、POAM分析の実施

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無												
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>制定 平成 19 年 10 月 1 日  改訂 平成 24 年 1 月18 日  改訂 平成 27 年 10 月 1 日  改訂 平成 30 年 4 月 1 日  改訂 平成 31 年 2 月 1 日  改訂 令和 5 年 7 月11 日</p> <p>○院内感染防止対策に関する基本的な考え方  ○院内感染防止に関する基本的事項  ○院内感染対策のための従業者に対する研修に関する基本方針  ○感染事例報告などの医療にかかわる安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針  ○施設内感染事例発生時の対応に関する基本方針  ○患者さん等に対する当該指針の閲覧にする基本方針  ○その他医療安全の推進のために必要な基本方針</p>													
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回												
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>1) 院内ラウンドの報告  2) 病原体の検出報告（MRS A、緑膿菌、血液培養陽性、薬剤耐性菌、CDの検出状況等）  3) 感染症治療薬使用状況（毎月の抗MRS A薬、カルバペネム系抗菌薬、第4世代セフェム系抗菌薬、抗真菌薬）  4) HIV感染症関連報告  5) ASTからの注意喚起  6) 感染症発生報告書提出状況  7) その他</p> <p>・ 開催状況：</p> <table border="0" data-bbox="239 1411 925 1635"> <tr> <td>第1回 令和4年4月26日</td> <td>第 7回 令和4年10月25日</td> </tr> <tr> <td>第2回 令和4年5月31日</td> <td>第 8回 令和4年11月29日</td> </tr> <tr> <td>第3回 令和4年6月28日</td> <td>第 9回 令和4年12月27日</td> </tr> <tr> <td>第4回 令和4年7月26日</td> <td>第10回 令和5年 1月31日</td> </tr> <tr> <td>第5回 令和4年8月30日</td> <td>第11回 令和5年 2月28日</td> </tr> <tr> <td>第6回 令和4年9月27日</td> <td>第12回 令和5年 3月28日</td> </tr> </table>		第1回 令和4年4月26日	第 7回 令和4年10月25日	第2回 令和4年5月31日	第 8回 令和4年11月29日	第3回 令和4年6月28日	第 9回 令和4年12月27日	第4回 令和4年7月26日	第10回 令和5年 1月31日	第5回 令和4年8月30日	第11回 令和5年 2月28日	第6回 令和4年9月27日	第12回 令和5年 3月28日
第1回 令和4年4月26日	第 7回 令和4年10月25日												
第2回 令和4年5月31日	第 8回 令和4年11月29日												
第3回 令和4年6月28日	第 9回 令和4年12月27日												
第4回 令和4年7月26日	第10回 令和5年 1月31日												
第5回 令和4年8月30日	第11回 令和5年 2月28日												
第6回 令和4年9月27日	第12回 令和5年 3月28日												
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 2 回												
<p>○院内感染防止対策講習会（全教職員対象）</p> <p>第 1 回 講義形式：Safety Plus（e-ラーニング）  配信期間：令和4年6月25日（土）～ 令和5年3月31日（金）  内 容：院内感染防止対策  講 師：福島篤仁（感染制御センター・副センター長）  参 加 数：2,488 名</p>													

第2回 講義形式：Safety Plus (e-ラーニング)

配信期間：令和4年8月1日（月）～ 令和5年3月31日（金）

内 容：抗菌薬適正使用支援チーム（AST）からの提言

講 義①：微生物学的診断の利用について

講 師：鈴木弘倫（感染制御センター、臨床検査技師主任）

講 義②：経口抗菌薬の使用状況・適正使用

講 師：長岡 匠（感染制御センター・薬剤部主任）

参加数：2,442名

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 ( 〇・無 )
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

感染症起因菌検出時に臨床検査センターから、主治医および感染制御センターにその都度報告される。感染症の届出を要するものが速やかに提出されない場合、感染制御センターから主治医へ届出提出を促している。

感染症管理支援ライブラリーにより電子カルテ上で患者の菌検出情報、抗菌薬使用状況等を把握し感染症の患者情報が迅速に得られ、医師、看護師の感染対策が早期に開始されている。また、入院患者および職員の感染症罹患情報を「健康観察把握票」に記載し、随時感染制御センターへ提出することになっている。

感染制御センターでは「健康観察把握票」をもとに感染対策状況を確認し、指導している。感染症届出の手順について、全ての職員に配付している「医療安全管理マニュアル（ポケット版）」に明記している。

職員対して周知・伝達が必要な情報等はICTニュース等により情報提供をしている。学内専用ホームページを開設して①院内感染防止対策マニュアル、②感染防止講習会日程表、③ICTニュース並びに抗菌薬適正使用支援チーム(AST)からの注意喚起を掲載し情報提供している。

○新型コロナウイルス感染症について

- ・ 新型コロナウイルス感染症関連情報における周知方法の構築
- ・ 医療物資の一元管理
- ・ 新型コロナウイルス感染症院内対策マニュアル第1版作成、以降厚生労働省：新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の改訂に合わせて改訂実施し2021年9月現在（第4版）
- ・ PCR検査体制のシステム化
- ・ 教員、職員、学生の体調不良時の際の受診方法のシステム化
- ・ 一般患者受入れの際のリスク分類の明確化
- ・ 新型コロナウイルス感染症患者の受入れ時のシステム化と患者受入れの時の病床整備、病院衛生環境方法の統一化
- ・ 患者の回復に合わせた病床選択
- ・ 危機管理会議の開催など

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	☑・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回医薬品に関わる安全講習会 医薬品副作用被害救済制度 ～薬を使うすべての方に知ってほしい制度です～</li> <li>第2回医薬品に関わる安全講習会 病棟における麻薬管理について</li> </ul> </li> </ul>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手順書の作成 (☑・無)</li> <li>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <p>医薬品の採用、医薬品の購入、薬剤部における医薬品の管理、病棟・各部門への医薬品の供給、外来患者への医薬品使用、病棟における医薬品の管理、入院患者への医薬品使用、医薬品情報の収集・管理・周知、手術・麻酔部門、救命救急センター及び集中治療室、輸血・血液管理部門、血液浄化部門、臨床検査部門、画像診断部門、外来化学療法部門、歯科領域、他施設との連携、在宅患者への医薬品使用、事故発生時の対応、教育・研修、特に安全管理が必要な医薬品（ハイリスク薬）、放射線医薬品、院内製剤、未承認・適応外および禁忌等の使用について、医薬品関連の情報システムの利用。</p> </li> </ul>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (☑・無)</li> <li>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： <p>レトロビルシロップ：（産科婦人科、小児科）HIV母子感染を予防する目的で使用。 スコポラミン軟膏：（小児科）重症心身障害児の流涎に対して使用。 酢酸1.5%：消化管腫瘍性病変の組織異型度及び深達度を術前診断・予測に使用。</p> </li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容： <p>院内採用薬の削減 病棟定数薬の削減（特にハイリスク薬） 定数配置されているハイリスク薬について病棟担当薬剤師による注意事項の説明会（病棟内勉強会） リフィル処方せん対応様式へのマスタ変更 時間外持参薬報告について日直帯における緊急入院患者、休日の予定入院患者に対して病棟から依頼があった際に持参薬報告を行っていたが、当直時間帯も対応。</p> </li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 30 回
<p>・ 研修の主な内容： 当該医療機器の有効性、安全性、使用方法、保守点検、不具合時の対処方法、禁忌事項に関する項目を中心に研修を実施している。より多くの職員が研修受講できるように機種によっては、e-ラーニング形式での研修を実施した。</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 ( 有・無 )          ・ 機器ごとの保守点検の主な内容：          使用前点検：外観点検及び作動点検 使用中点検：医療機器の設定/作動状況を確認する点検          使用后点検：機器使用後に安全性劣化や性能等の問題を発見する点検 定期点検：日常点検と異なり詳細な点検や消耗部品の交換等により機器の性能を確認すると共に次回点検までに性能の維持を確保するために行う。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ( 有・無 )          ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例 (あれば) : なし</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：          ME機器管理室にて一元管理している医療機器については添付文書及び簡易取扱い説明書を医療機器管理システムにて管理している。また機器の使用者が添付文書等確認しやすいように電子カルテからも閲覧できるようにした。          メーカーやPMDA等より院内で使用している医療機器の不具合情報を得た場合には、使用部署を確認し回収等の処置を行う。またクラス I の回収情報を得た場合には当院で使用している、していないは問わず関連部署及び病院管理者まで報告をする。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 責任者の資格 (医師・歯科医師)</li> <li>・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</li> </ul> <p>病院長から任命を受けた副院長（医療安全担当）が医療安全管理責任者、医療安全推進センター長、医療安全管理委員会委員長を務め、医療安全推進センターを兼務する医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者及び医療放射線安全管理責任者を統括している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（ 8 名）・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 <ul style="list-style-type: none"> <li>電子カルテ上に「薬剤部」のページを作り、その情報を更新。（厚労省関連情報、医薬品情報、薬剤部関連情報、PMDA 関連情報等）</li> <li>院内の各部署、診療科の代表者メールを管理し、メーリングリストを作成し配信。</li> <li>庶務課を介し、院内の各部署、診療科へ書面を作成し配布。</li> <li>緊急性の高い緊急安全性情報、安全性速報については情報入手後、前記2ルート（メール配信、書面での配布）と共に、電子カルテ薬剤部ページへの掲載。並びに、過去3か月に遡り対象医薬品を処方した医師を抽出し個々の医師宛て書面にて注意喚起を行う。</li> <li>医薬品・医療機器等安全性情報に掲載された「重要な副作用等に関する情報」についても同様に過去3か月に遡り、対象医薬品を処方した医師を抽出し個々の医師宛て書面にて注意喚起を行う。また、薬事委員会で報告する。</li> <li>医薬品の回収命令については、医療安全管理責任者（医療安全推進センター）を経由して病院長へ報告。</li> <li>自主回収、製造販売中止などの情報入手時は、院内配置在庫の回収、薬剤部在庫の確認を随時実施する。</li> <li>採用医薬品については3年毎に「医薬品集」を発行し院内医療職へ配布。その間は1年ごとに追補版を作成し配布。</li> </ul> </li> <li>・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 <ul style="list-style-type: none"> <li>未承認新規医薬品評価委員会の開催。</li> <li>モニタリング</li> <li>初回（1症例目）実施時及びその後定期的（6ヶ月毎）に承認後の実施状況報告を求め、病院長に報告。</li> <li>委員会が審査を行った申請に関する審査資料の管理。</li> </ul> </li> </ul>	

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担当者の指名の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 )</li> <li>・ 担当者の所属・職種 : <ul style="list-style-type: none"> <li>( 所属 : 医療安全管理部門, 職種 医師 ) ( 所属 : 医療安全管理部門, 職種 薬剤師 )</li> <li>( 所属 : 医療安全管理部門, 職種 看護師 ) ( 所属 : 医療安全管理部門, 職種 事務 )</li> <li>( 所属 : 心臓血管内科/循環器内科, 職種 医師 ) ( 所属 : 血液・腫瘍内科, 職種 医師 )</li> <li>( 所属 : 形成外科・美容外科, 職種 医師 ) ( 所属 : 上部消化管外科, 職種 医師 )</li> <li>( 所属 : 薬剤部 , 職種 薬剤師 ) ( 所属 : 看護部 , 職種 看護師 )</li> </ul> </li> </ul>	
③ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 )</li> <li>・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容 : 平成28年9月1日付けでインフォームド・コンセント責任者(以下、「責任者」という。)、各部門等にインフォームド・コンセント担当者を配置した。また、平成31年1月1日付けで責任者が委員長を務めるインフォームド・コンセント委員会(以下、「IC委員会」という。)を設置し、各診療科等が作成するインフォームド・コンセントに必要な説明書、同意書、説明用補助資料の内容が、病院が定める所定様式、又は説明に必須となる事項等の基準を満たしているかなど、一元的に審査・管理する体制を構築した。IC委員会では、承認後の説明・同意の状況について、当院が規定する手順に沿って適切な説明が行われているかの遵守状況を電子カルテ上で2ヶ月毎にモニタリングし、適切でない事例が認められた場合は当事者に対して必要な指導を行うとともに、ケースに応じて院内通知又は研修会等で取り扱うなど、周知・徹底に努めている。</li> </ul>	

④ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容 : <ol style="list-style-type: none"> <li>① 診療録等の記載内容(質的監査・量的監査)の確認を定期的に行い、診療記録管理委員会で点検結果を報告するとともに、記載内容が十分でない事例が認められる場合は、当該事例を各部署に周知し改善要請を行う。</li> <li>② 退院サマリーの作成状況の把握と早期作成の推進。</li> <li>③ 文書の適切なスキャニング及び当該文書の取扱状況(量)の把握。</li> <li>④ 紙の診療録等の管理・また適切な保管スペースの確保。</li> </ol> </li> </ul>	
⑤ 医療安全管理部門の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所属職員 : 専従(9)名、専任( )名、兼任(6)名</li> </ul>	

うち医師：専従（１）名、専任（ ）名、兼任（３）名

うち薬剤師：専従（１）名、専任（ ）名、兼任（１）名

うち看護師：専従（３）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

○インシデント・アクシデント・死亡・院内急変情報の収集、分析と改善案の立案に関すること

○改善策の依頼、助言、実施及び評価に関すること

○医療事故防止対策マニュアルに関すること

○職員の医療安全管理に対する意識の向上や指導等に関すること

○発生した医療事故への対応に関すること

○医療安全推進のために必要な施策等の調査及び研究に関すること

○日本医療機能評価機構並びに県内の医療機関と県南健康福祉センター・厚生労働省関東信越厚生局指導監査部門。医療監視との情報交換

○医療事故等に関する患者及び家族への対応

○定期的に院内を巡回し、各部門における医療安全対策の状況を把握、分析し、具体的対策を推進すること

○その他医療安全管理に関すること

毎朝、インシデント報告分析支援システムを確認し、不備があればリスクマネージャーに差し戻し、場合によっては電話で状況を確認している。また、状況に応じて事例に関するカンファレンスにも出席して、インシデント防止に努めている。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

#### ⑥ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（２２件）、及び許可件数（２２件）

・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）

・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）

・活動の主な内容：

○申請書の受付／申請書の不備確認

○評価委員会の開催通知／審査結果通知等の発送

○承認後のモニタリング

○審査資料等の保管（申請書／実施計画書／議事録／遵守状況の確認記録等）

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（・無）

⑦ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（19件）、及び許可件数（19件）

・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）

・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）

・ 活動の主な内容：

○申請書の受付／申請書の不備確認

○評価委員会の開催通知／審査結果通知等の発送

○承認後のモニタリング

・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）

・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（・無）

⑧ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年776件

・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年6件

・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

《所掌業務》

○医療安全対策の検討及び研究に関すること

○医療事故の分析及び再発防止策の検討に関すること

○医療安全対策のための職員に対する指示に関すること

○医療安全対策のために行う提言に関すること

○医療事故発生防止のための啓発、教育、広報及び出版に関すること

○その他医療安全対策に関すること

《具体的業務》

- インシデント・アクシデント報告書及び問題（又は問題となりうる）事例届を収集し、事例ごとに分類し、さらに発生要因の分析を行い、事故の防止策を検討する。
- 検討を行った医療安全対策を病院長に報告するとともに、職員に周知し、安全策の具体的方策の指示を行う。
- 医療安全対策のための教育及び研修を行う。
- 医療事故安全対策のためのマニュアルを作成する。
- インシデント・アクシデントの報告は、原因分析から安全対策作成のための大きな教訓となることから、これらの情報収集が重要となるが、報告者が不利益を被らないよう配慮する。

⑨ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（（病院名：岩手医科大学病院）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（（病院名：岩手医科大学病院）・無）
- ・技術的助言の実施状況

【技術的助言】

- ① 医師がインシデント・アクシデントの報告をすることの意識付けとして、研修医の時から教育が大事だと感じる。また、指導医がインシデント・アクシデント報告書を書くように指導するスタンスがないといけないと思うので、そのような体制の構築を検討ください。
- ② 当院では厚生局の立入検査時の指摘事項で院内にある機器（持込医療機器を含む）に関し、どこかの部署で把握するべきとの指摘を受けた。持込医療機器を含めた機器のすべてを把握しているかと言われたら不安が残るが、把握するように努めているので、貴院においても機器の把握について検討ください。

【実施状況】

- ① 今年度から臨床研修医を対象に2件／年以上のインシデント・アクシデント報告（ヒヤリハット含む）を義務化し報告文化の醸成に努めると共に、各診療科のセイフティマネージャーを通し、臨床研修医への教育・指導を行い、医師の意識改革に努めている。
- ② 特に在宅で使用されている人工呼吸器に関しては、院内に持ち込んだ場合にも使用中点検等の管理も行わなければなりませんので、まずは人工呼吸器の把握から開始し、徐々に管理できる持ち込みの医療機器を増やしていくことに努めている。

⑩ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況

病院1階の地域連携・患者サポートセンター医療福祉相談部門内に“患者相談窓口”を設置し、専従

の医療ソーシャルワーカーを配置している。患者からの相談内容に応じて、医療安全管理を担う「医療安全推進センター」との連携体制を構築している。

⑪ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

上記「規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置」内「③医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況」のとおり

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑫ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

○研修会名；2022年度特定機能病院管理者研修事業  
初回・14時間研修

受講者；管理者（病院長）、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

公益財団法人 日本医療機能評価機構

訪問審査受審（一般病院3）：平成30年9月20日（木）～22日（土）の3日間

認定期間：2018年11月17日～2023年11月16日（認定JC71-4号）

※2023年8月3日～5日に受審。

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

学外には公表していないが、学内には公表している。

・評価を踏まえ講じた措置

是正すべき項目については、是正し、再受審して認定済み。

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基準の主な内容 臨床医学の講座主任教授  医療安全確保のために必要な資質・能力を有している者  病院の管理運営に必要な資質・能力を有している者</li> <li>・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 ）</li> <li>・ 公表の方法 規程集に掲載している。</li> </ul>

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ 有 ・ 無 ）</li> <li>・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ 有 ・ 無 ）</li> <li>・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ 有 ・ 無 ）</li> <li>・ 公表の方法 <a href="https://www.dokkyomed.ac.jp/hosp-m/hospital/advanced-treatment/">https://www.dokkyomed.ac.jp/hosp-m/hospital/advanced-treatment/</a></li> </ul>				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
吉田謙一郎	学長	○	学長（規程第7条第1号）	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
平田 幸一	副学長		副学長（規程第7条第2号）	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
窪田 敬一	大学病院長		大学病院長（規程第7条第3号）	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
奥田 泰久	埼玉医療センター 病院長		埼玉医療センター病院長（規程第7条第4号）	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
安 隆則	日光医療センター 病院長		日光医療センター病院長（規程第7条第5号）	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
若松 昭豊	事務局長		事務局長（規程第7条第6号）	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
麻生 好正	内科学（内分泌 代謝）講座主任教		医学部教授会から選出された臨床医学講座の主任教	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無

	授		授（規程第7条第1項第7号）	
種市 洋	整形外科 講座主任教授		医学部教授会から選出された臨床医学講座の主任教授 授（規程第7条第1項第7号）	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
釜井 隆男	泌尿器科学 講座主任教授		医学部教授会から選出された臨床医学講座の主任教授 授（規程第7条第1項第7号）	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
稲野 秀孝	栃木県医師会長		学長が委嘱する学外有識者（規程第7条第8号）	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
仲山 信之	栃木県保健福祉部 保健医療監		学長が委嘱する学外有識者（規程第7条第8号）	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・合議体の主要な審議内容</p> <p>病院の管理運営に関する重要事項を審議するため、病院運営委員会を設置し、以下の事項を審議している。</p> <p>(1) 病院の経営に関する事項</p> <p>(2) 病院の運営に関する事項</p> <p>(3) 病院の将来計画に関する事項</p> <p>(4) 病院の診療体制に関する事項</p> <p>(5) その他診療に関する事項</p> <p>・審議の概要の従業者への周知状況</p> <p>毎月、診療部長会・病院連絡会を開催し、概要を報告している。</p> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）</p> <p>・公表の方法</p> <p>規程集に掲載している。</p> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無（ 有・<input checked="" type="checkbox"/>無 ）</p>	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
吉田 謙一郎		医師	学長
平田 幸一		医師	副学長
坂本 悦男		事務	事務局長
麻生 好正	○	医師	病院長
釜井 隆男		医師	副院長
吉原 重美		医師	副院長
福田 宏嗣		医師	副院長
入澤 篤志		医師	副院長
臼井 悟		薬剤	薬剤部長
小松 富恵		看護	看護部長
伊藤 公三		事務	事務部長

## 規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

### 管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ ・無 ）
- ・ 公表の方法

規程集に掲載している。

- ・ 規程の主な内容

獨協医科大学病院規程第2条第3項：病院の管理運営をつかさどり、所属職員を統括する。

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

副院長：医療安全推進、院内感染防止対策担当、ロボット手術支援担当、病床管理担当  
病院機能評価担当

院長補佐：HCU開設担当、キャリア支援等担当、看護体制担当

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

管理職研修会を毎年開催し、本学の方針に則った共通認識のもと人材育成を図っている。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況					<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容： 大学病院内における医療安全管理業務の執行状況を監査している。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p> <p>・ 公表の方法： ホームページにより公開（<a href="https://www.dokkyomed.ac.jp/hosp-m/hospital/audit/">https://www.dokkyomed.ac.jp/hosp-m/hospital/audit/</a>）</p>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 （○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
野間 重孝	宇都宮済生会病院	○	医療に関わる安全管理に関する識見を有する者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
菊池 不佐男	菊池法律事務所 弁護士		法律に関する識見を有する者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
関根 房三	社会福祉法人 社会福祉協議会 会長		医療を受ける者の代表者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
美津島 隆	獨協医科大学			<input checked="" type="checkbox"/> ・無	医療に関する学識経験者

石田 和之	獨協医科大学			有・無	医療に関する学 識経験者
-------	--------	--	--	-----	-----------------

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを  
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

学園内部監査室による監査の他、定期的な監事監査を実施している。

・ 専門部署の設置の有無 (  ・ 無 )

・ 内部規程の整備の有無 (  ・ 無 )

・ 内部規程の公表の有無 (  ・ 無 )

・ 公表の方法

規程集に掲載している。

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況   <div style="margin-left: 20px;">理事会にて管理運営状況を監督している。</div> </li> <li>・ 会議体の実施状況（年 7 回）</li> <li>・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（<input checked="" type="checkbox"/>・無）（年 7 回）</li> <li>・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</li> <li>・ 公表の方法  <div style="margin-left: 20px;">規程集に掲載している。</div> </li> </ul>			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況

- ・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (  有 ・ 無 )
- ・ 通報件数 (年〇件)
- ・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (  有 ・ 無 )
- ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (  有 ・ 無 )
- ・ 周知の方法

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>栃木県保健医療計画 (7 期計画) に基づき、がんの医療、脳卒中の医療、心筋梗塞の医療、糖尿病の医療、救急医療、災害医療、周産期医療及び小児医療を主に地域における当院の役割と基本方針に定め、啓発ポスターの院内掲示やHP、ラジオ等での情報発信をはじめ、他の医療機関関係者並びに地域住民に対して研修会やセミナーを開催している。</p> <p>また、栃木県及び国の委託事業にも積極的に参加し、県民及び国民のために尽力を尽くしている。</p> <p>。</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>ハートセンターなど、心臓・血管疾患診療に携わる当院 3 診療科 (心臓・血管内科/循環器内科、腎臓・高血圧内科、心臓・血管外科) の医師が、医療従事者とともに各診療科の枠組みを超え、一致協力して診療を行っており、これまで以上に急性期医療から心臓リハビリテーションに至るまで、質の高い医療を多くの患者様に提供しているほか、近年では糖尿病センター、ロボット手術支援センター及びアレルギーセンターを設置するなど、中央部門に 2 3 センターを整備し各診療科が密接な連携を取り、患者さまにより分かりやすく安全な医療を提供するため、積極的なセンター化に取り組んでいる。</p>	